



国立大学法人  
和歌山大学

2021

## 地域インターンシッププログラム活動報告書



### **Local Internship Program (LIP)**

地域が抱える課題を住民とともに発見し、

その解決方法を考える

和歌山大学観光学部



## はしがき

和歌山大学観光学部における「地域インターンシッププログラム（LIP）」の取り組みは、2008年度に開始されて以降、これまでに166件のプログラムが実施され、延べ1800人以上の学生が地域での様々な活動を通じた実践的な学びの機会を得ています。現地を訪れ、地域の方々とともに課題に取り組むなど密度の濃い交流を続けた結果、なかには数年にわたる継続的なプログラムに発展する活動もみられるようになりました。学生の受け入れやプログラムの実施にご尽力いただいている地方自治体や関係諸団体の皆様のご支援とご協力に心から感謝を申し上げる次第です。

さて本学部は、「観光経営」「地域再生」「観光文化」の3つの基本領域を軸として、これらの領域を融合的かつ横断的に学ぶカリキュラムに取り組んでいます。本カリキュラムにおいては、高度な専門性と現場での創造的実践力を獲得することを目標に、国際性を養う教育と国内外の地域の諸課題に向き合う実践型教育を重視しています。地域に関わり現場で起きている事柄を身をもって学ぶことができるLIPは、観光学部の実践型教育の一翼を担う取り組みとして重要な位置を占めています。

2020年度以降は新型コロナウイルスが世界的に猛威を振るう中で、LIPにおいてオンラインでの活動を中心とせざるを得ない状況となりました。同年8月には「観光学部地域インターンシッププログラム（LIP）における学外研修活動および対面での活動に関するガイドライン」を策定し、2021年度においても地域内外の感染状況を見極め、十分な対策を講じた上で、可能な範囲での学外研修活動を実施してまいりました。こうした取り組みにご理解・ご協力いただいた行政、受け入れ団体をはじめとする地域の関係者の皆様に、心より御礼申し上げます。

2022年度からは、これまでのLIPの成果と経験を活かしつつ、さらに質の高い地域連携活動を持続的に展開するため、「地域連携プログラム（LPP）」として枠組みを再編し、再出発する予定です。今後とも、本学部の地域連携活動に一層のご支援ご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

2022年3月

和歌山大学観光学部  
地域連携委員会 永瀬節治



## 目次

はしがき .....	1
目次.....	3
1. LIP の概要とこれまでの歩み .....	5
1) LIP の概要 .....	5
2) データでみる LIP の歩み .....	6
2. 2021 年度 LIP 活動報告 .....	9
1) 和歌山県和歌山市 .....	14
2) 和歌山県岩出市.....	16
3) 和歌山県紀の川市.....	18
4) 和歌山県海南市.....	20
5) 和歌山県海草郡紀美野町 .....	22
6) 和歌山県海草郡紀美野町 .....	24
7) 和歌山県有田市.....	26
8) 和歌山県有田市.....	28
9) 和歌山県有田郡広川町 .....	30
10) 和歌山県日高郡美浜町 .....	32
11) 和歌山県田辺市.....	34
12) 和歌山県東牟婁郡那智勝浦町.....	36
13) 和歌山県新宮市 .....	38
14) 和歌山県全域.....	40
15) 大阪府阪南市.....	42
16) 大阪府岸和田市 .....	44
17) 大阪府岸和田市 .....	46
18) 大阪府岸和田市.....	48
19) 和歌山県有田郡有田川町.....	50
20) 岩手県胆江地方および和歌山県 .....	52

2 1) 岡山県津山市、香川県坂出市 .....	54
3. 参考資料 .....	56
1) LIP の沿革 .....	56
2) これまでの LIP 活動地域と活動テーマ一覧 .....	58

## 1. LIP の概要とこれまでの歩み

### 1) LIP の概要

和歌山大学観光学部では、和歌山県内及び大阪南部の市町村などの協力のもと、地域が抱える課題を地域住民とともに発見し、その解決方法を考える「地域インターンシッププログラム」(通称：LIP<sup>1</sup>)を実施している。本プログラムは、地域活性化に関心をもつ学生が、現地に足を運び、地域住民と連携することによって地域の課題や調査活動に取り組むもので、「学生と地域を活性化したい」、「地域の魅力を発見したい」といった地域からの提案を受け、毎年複数の活動を実施している。

LIPに参加する学生は、学内の事前学習や現地視察を通して地域の実情を学び、さらには現地調査や地域住民との交流、イベントの企画運営などを通じて、それぞれの地域の真の魅力や課題と向き合っていく。具体的なプログラムとしては、観光施設の職員や利用者への聞き取り、宿泊施設や農家民泊のモニター、集客イベントの企画運営、観光資源調査やマップ作成、就業体験などに取り組んできた。

「この地域にはどのような観光資源があるか」、「埋れている観光資源はないか」、「観光資源が有効に活用されているか」、「どうすれば地域が元気になるか」。こうした課題に対して、地域住民は生活者の視点から、学生は「ヨソ者」の視点から意見を出し合い、ともに活動をしていく。このような対話や活動が、双方にとって新たな気づきの機会となることもこのプログラムの特徴である。

LIPは、こうした相互作用を通じて、地域住民は「ヨソ者」の力を活かしながらより自立的なまちづくり活動を行う力を、そして学生は地域住民の思いを理解しつつ、地域活性化の方法を提案できる力を養い、地域を支える人材として活躍することを目指している。

上記の趣旨を踏まえ、本プログラムは、学生が「地域の方々と交流を図りながら、観光振興や地域再生の実践を現場で学ぶ」ことができる内容を含むことを実施の要件としている<sup>2</sup>。

なお、LIPには、和歌山県内及び大阪南部の市町村など、地域から学生が地域再生や観光振興の現場を体験できるプログラムを公募する「公募タイプ」と、観光学部の専任教員が、地方公共団体などとの共同研究を通じた連携のもとにプログラムを申請する「申請タイプ」の2タイプがある。

\*2022年より、LIPは「地域連携プログラム (Local Partnership Program: LPP)」として内容を再編し、再出発する予定です。詳細は観光学部ホームページをご参照ください。

---

<sup>1</sup> 2011年にRIP (Regional Internship Program) からLIP (Local Internship Program) に改称。

<sup>2</sup> LIPは2012年度より単位として認定されている。単位取得のためには事前事後学習を含めて30時間以上の活動が求められ、活動時間に応じて、「基礎自主演習」または「プロジェクト自主演習」の単位が認定される。

## 2) データでみる LIP の歩み

観光学部で実施している LIP は 2021 年度で開始 14 年目を迎えた。ここでは、これまでの LIP の歩みについて、データをもとに示していく。

表 1 は、2008 年度以降の年度別実施プログラム数を示している。年度ごとのプログラム数にはばらつきがあり、最多 21 件（2016・2021 年度）、最少 3 件（2010 年度）となっている。2011 年度からは、観光学部専任教員からの申請により実施される申請タイプが創設され、プログラム数が安定するとともに幅広い活動が可能となっている。

表 1 年度別プログラム数

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	合計
6	8	3	4 (1)	11 (5)	5 (2)	10 (3)	15 (6)	21 (7)	19 (4)	13 (3)	14 (4)	16 (3)	21 (3)	166 (41)

※カッコ内は申請タイプのプログラム内数

次に、図 1 は年度別の参加学生数を示している。参加学生延べ人数は、2014 年に 100 名、2016 年には 200 名を超えるなど、増加している。これは、実施プログラム数が増加したとともに、プログラムあたりの定員規模の拡大が起因していると考えられる。ただし、全プログラムが一様に拡大傾向を示しているわけではなく、現状では、大規模のものと小規模のものが並存する状態にある（2021 年度は最少 1 名、最大 32 名）。この点は、プログラムの内容など、地域の課題やニーズに即したかたちで活動が実施されていることが影響している。

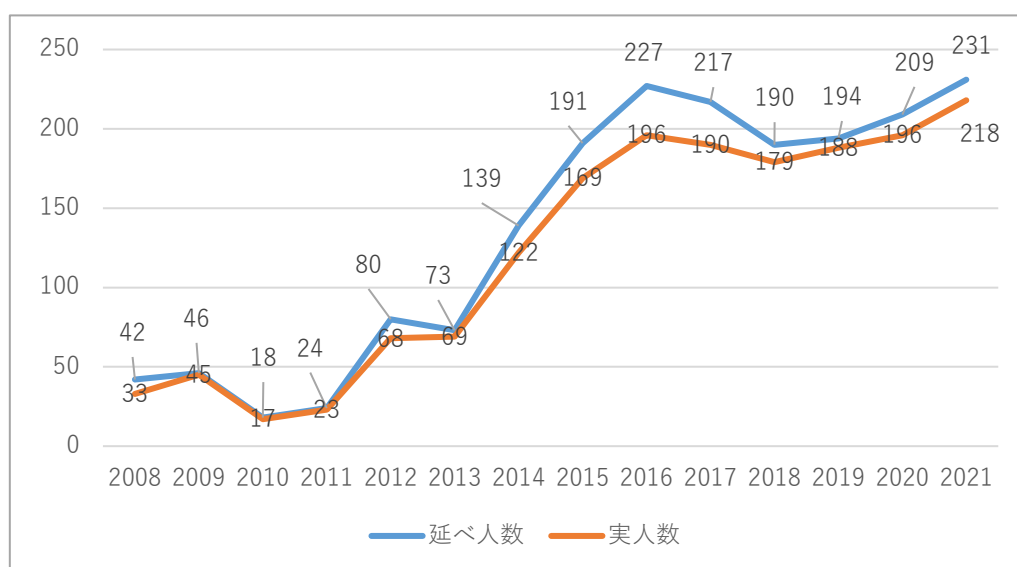


図 1 年度別参加学生数



表 2 に示した通り、学年別の参加学生数は 1 回生がもっとも多い。低学年次から地域での活動に関心を持ち、積極的に地域と関わりたいと考える学生が多いことを示している。このような傾向は近年みられるようになったもので、図 2 のように、プログラム創設初期は 2、3 回生の参加が中心であった。

また、4 回生の参加者がみられるようになったことも近年の特徴である。これは、単年度のプログラムではなく、同様の地域において継続的に実施するプログラムが増加していることが要因であると推察される。

表 2 学年別参加学生数

	1 回生	2 回生	3 回生	4 回生
延べ人数	1,881	703	631	141
<b>実人数</b>	<b>1,713</b>	<b>669</b>	<b>569</b>	<b>132</b>

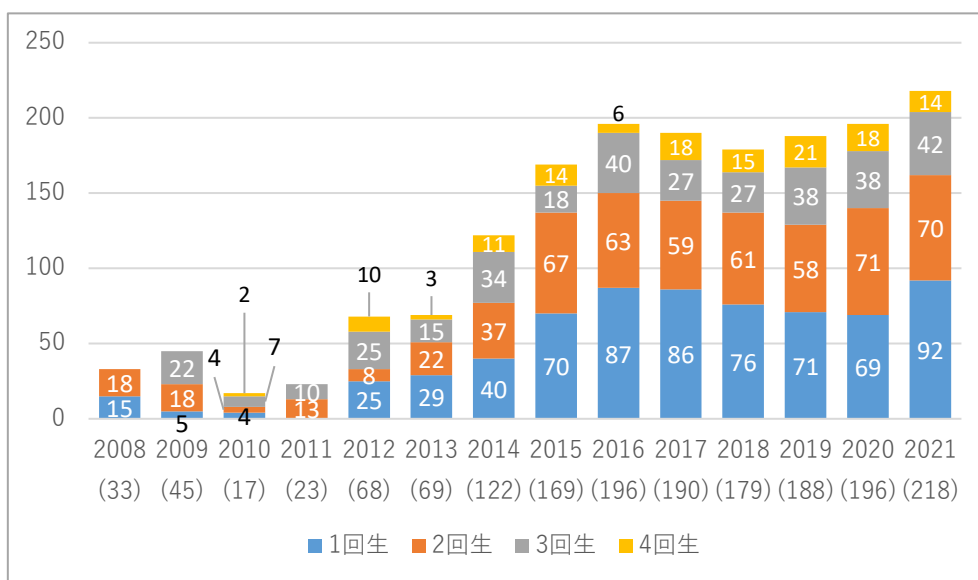


図 2 学年別参加学生数の変遷 (実人数ベース)

次頁図 3 に示すのは、プログラムあたりの平均参加学生数である。先に述べた定員規模の拡大によりプログラムあたりの平均参加学生数が増加傾向であったが、近年は小規模のプログラムが実施されていることもあり、徐々に減少傾向にあった。2018 年度からは、定員規模の大きいプログラムが複数みられたことで、プログラムあたりの平均参加学生数が 12～13 人前後で推移している。

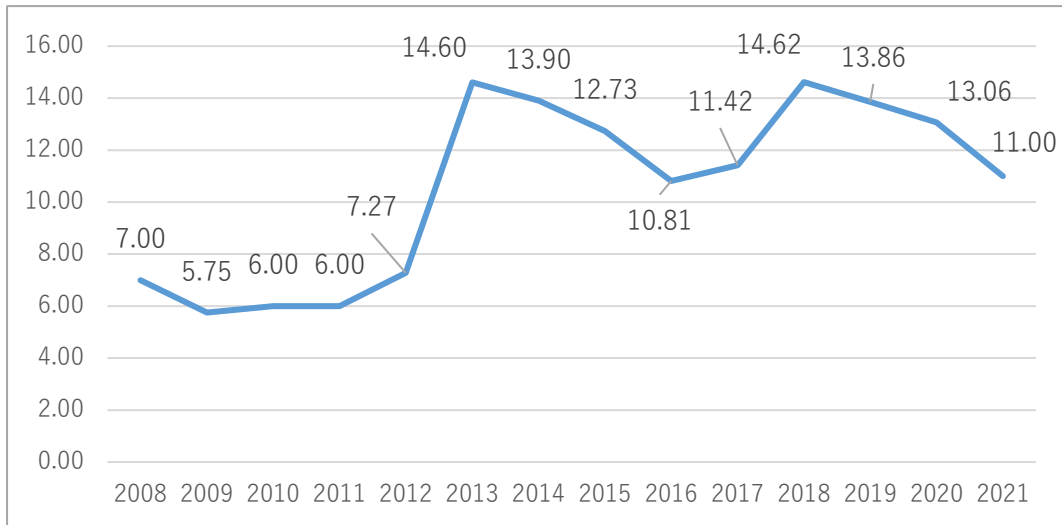


図3 プログラムあたりの平均参加学生数（延べ人数ベース）

また、図4に示すように、プログラム数および定員規模が拡大したことにより6期生以降、参加者数は飛躍的に増加している。特に14、15期生は来年度以降の参加が見込まれるため、この傾向はより顕著になると予測される。

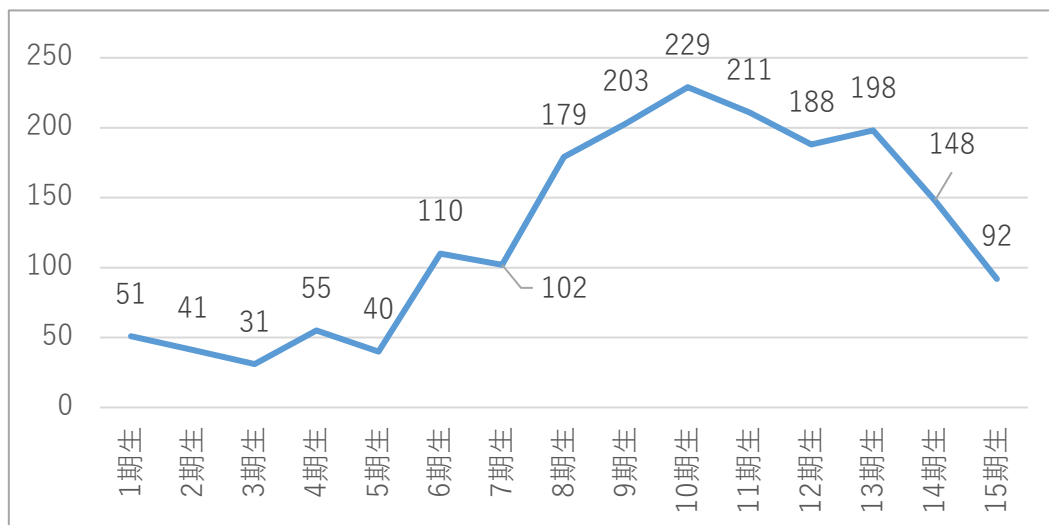


図4 期生ごとの参加者数の推移

以上のように、開始から14年が経過した本プログラムは、参加学生数ならびにプログラム数が安定していることから、参加学生および地域からのニーズを汲み取った活動が展開されているとみることができる。しかしながら、今後も継続的に本プログラムを実施するにあたっては、それぞれの取り組みの質の向上と学生自身が学びをより深めることができるプログラムを提供することが求められている。

（文責：観光学部 地域連携委員会）

## 2. 2021 年度 LIP 活動報告

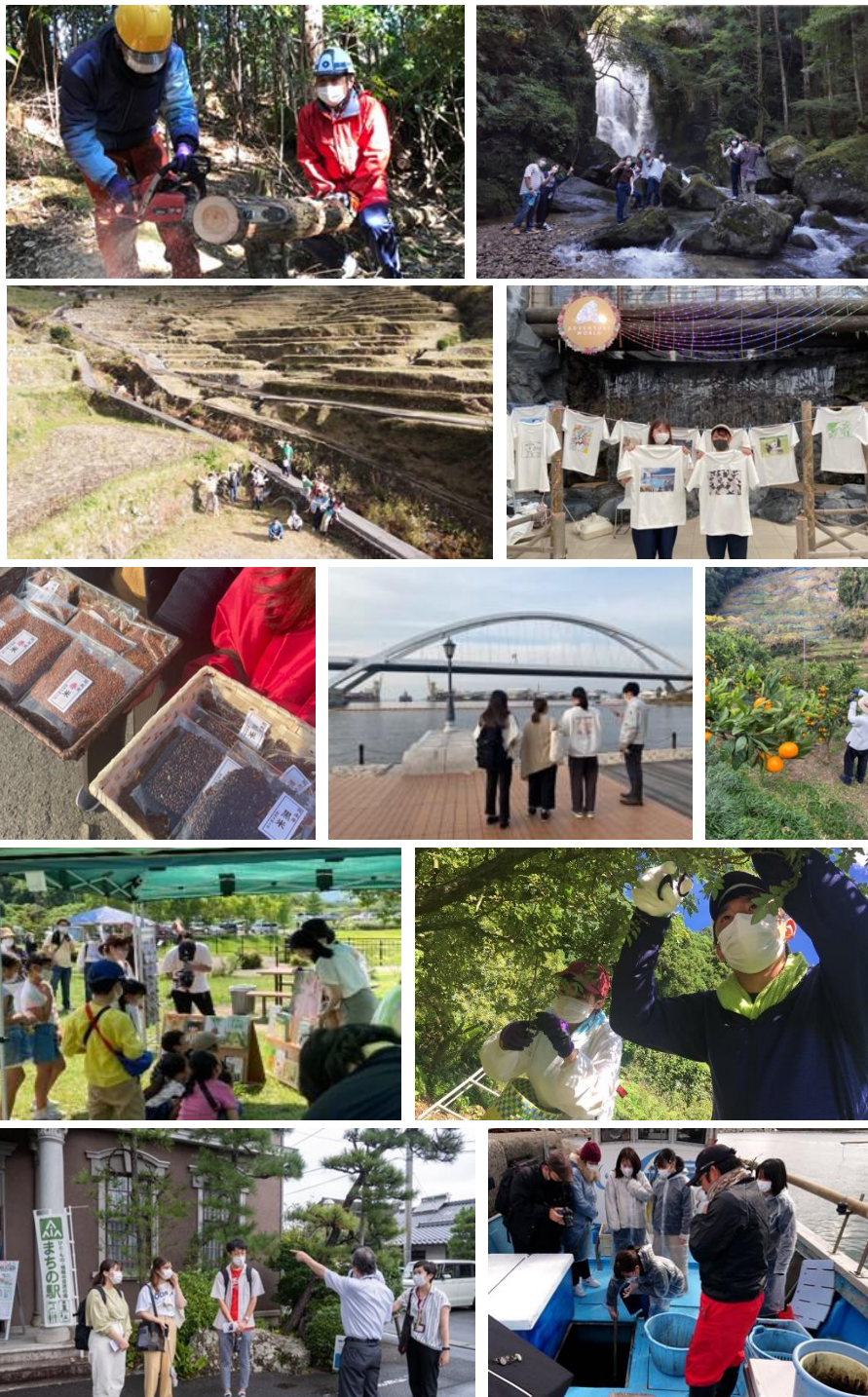
2021 年度は、21 プログラムが実施され、延べ 231 名の学生が地域で活動を行った。  
以下に示すのが今年度の実施プログラムの一覧である。

No	地域名	テーマ	参加 学生数
1	和歌山市	加太・磯の浦エリアにおける観光映像を活用した地域振興	23
2	岩出市	道の駅「ねごろ歴史の丘」利用者調査及び利用促進企画	7
3	紀の川市	紀の川スイーツの開発	13
4	海南市	交流・関係人口増を目指した エリア体験型観光コンテンツ開発	6
5	紀美野町	きみのげんきマップの作成	5
6	紀美野町	地区×学生による観光・文化・交流情報発信と棚田の再生	16
7	有田市	箕島で暮らす多世代の住民による魅力再発見/ 子どもまちづくりワークショップ	8
8	有田市	青みかん（摘果みかん）の価値を上げる	15
9	広川町	ツギー谷のお花畑の活用を通じた 津木地域の活性化を考える	17
10	美浜町	アメリカ村の観光コンテンツの発掘及び情報発信	9
11	田辺市	「林業×地域」の再発見： 森林・林業を活かした地域将来ビジョンづくり	3
12	那智勝浦町	地域の文化や風習の体験から地域住民と触れ合い、 地域・自分・社会のより良いあり方・つながり方を考える。 興味関心に応じた地域のプログラムを通じて知見を深め、 今後に繋がる価値の創出をめざす。	1
13	新宮市	新宮市高田区における観光モデルコースの造成	9
14	和歌山県全域	「紀の国わかやま文化祭 2021」 学生による文化の魅力発信	7
15	大阪府阪南市	古代米を活用した商品開発、PR に関して。 「古代米をおいしく食べる」	4
16	大阪府岸和田市	港湾エリアにおける持続可能なまちづくり (岸和田港まつりの企画・運営)	8

17	大阪府岸和田市	景観資源活用による景観意識の向上と地域の賑わい・活性化への貢献	4
18	大阪府岸和田市	岸和田市とアドベンチャーワールドが創る未来の Smile とは	7
19	*有田川町	学生との協働による棚田保全・集落支援活動	32
20	*岩手県胆江地方 および和歌山県	農村ワーキングホリデーを活用した都市農村交流の「鏡効果」と農村再生手法としての可能性の検証	21
21	*岡山県津山市 および香川県坂出市	瀬戸内カレッジ 2021	16

※\*は申請タイプのプログラム







2021年度

オンライン

# LIP合同活動報告会



和歌山大学観光学部の「地域実践型教育プログラム」

2021年度に実施した全21プログラムの参加学生が一堂に会し、活動報告を行います。  
新型コロナウイルス感染症の拡大状況を考慮し、Zoomミーティングを利用して  
オンラインでの実施です。是非、ご視聴ください。

2022年 2月5日 (土)  
13時～17時15分 (予定)

会場：Zoomミーティング

LIVE配信の参加定員：300名

- \* LIP参加学生、学部教職員、受け入れ自治体などの学外関係者のみに限ります。  
関係者にのみ参加用URLをお知らせします。
- \* 報告会の様子は、後日、観光学部ホームページで公開予定です。

## LIP（地域インターンシッププログラム）とは

地域活性化に関心をもつ学生が、現地に足を運び、地域住民と連携することによって、地域が抱える課題の解決を目指すプログラムです。  
地域住民は生活者の視点から、学生は「ヨソ者」の視点から意見を出し合い、ともに活動を行うことで、双方にとって新たな気づきの機会となることがLIPの特徴です。

※ 2022年度からは「地域連携プログラム（Local Partnership Program, LPP）」に名称を変え、新たな枠組みに生まれ変わります。  
詳しくは、後日、観光学部HP (<http://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/>) でお知らせします。

お問い合わせ先：  
和歌山大学観光学部 観光実践教育サポートオフィス  
〒640-8510 和歌山市栄谷930 西4号館K216室  
TEL 073-457-8553 / E-mail [tourism-er@ml.wakayama-u.ac.jp](mailto:tourism-er@ml.wakayama-u.ac.jp)

主催：和歌山大学観光学部

# 2021年度 LIP合同活動報告会 プログラム〔オンライン〕

2022年2月5日（土）13時～17時15分（予定）

## ■Zoomミーティング 入室

12:50～13:00

## ■2021年度 LIP合同活動報告会

13:00～13:10 開会あいさつ・趣旨説明 @メインルーム

13:10～13:15 各ブレイクアウトルームへ移動

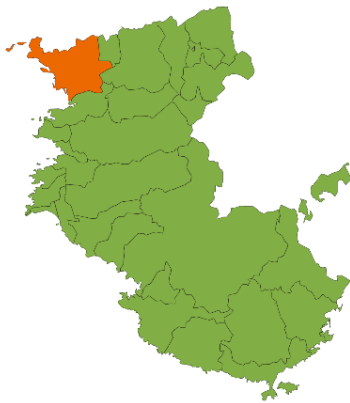
13:15～16:20 LIP活動報告（各報告：10分）  
\*各報告へのコメント・質問等はチャット機能を利用します。総括の際に各LIP代表がリプライをします。

	ブレイクアウトルーム①	ブレイクアウトルーム②
13:15～13:30	<b>有田市（宮原地区）</b> 青みかん（摘果みかん）の価値を上げる	<b>大阪府岸和田市（アドベンチャーワールド）</b> 岸和田市とアドベンチャーワールドが創る未来のsmileとは
13:30～13:45	<b>広川町</b> ツギー谷のお花畑の活用を通じた津木地域の活性化を考える	<b>和歌山県全域（紀の国わかやま文化祭）</b> 「紀の国わかやま文化祭2021」学生による文化の魅力発信
13:45～14:00	<b>和歌山市</b> 加太・磯の浦エリアにおける観光映像を活用した地域振興	<b>大阪府岸和田市（景観）</b> 景観資源活用による景観意識の向上と地域の賑わい・活性化への貢献
14:00～14:15	<b>美浜町</b> アメリカ村の観光コンテンツの発掘及び情報発信	<b>海南市</b> 交流・関係人口増を目指したエリア体験型観光コンテンツ開発
14:15～14:25	休憩&活動成果をまとめたポスターの閲覧	
14:25～14:40	<b>紀の川市</b> 紀の川スイーツの開発	<b>大阪府阪南市</b> 古代米を活用した商品開発、PRに関して
14:40～14:55	<b>新宮市</b> 新宮市高田地区における観光モデルコースの造成	<b>紀美野町（げんきマップ）</b> きみのげんきマップの作成
14:55～15:10	<b>紀美野町（小川地区）</b> 地区×学生による観光・文化・交流情報発信と棚田の再生	<b>大阪府岸和田市（港湾）</b> 港湾エリアにおける持続可能なまちづくり
15:10～15:25	<b>有田川町（棚田ふぁむ）</b> 学生との協働による継続的な棚田保全活動	<b>岩出市</b> 道の駅「ねごろ歴史の丘」利用者調査及び利用促進企画
15:25～15:35	休憩&活動成果をまとめたポスターの閲覧	
15:35～15:50	<b>岩手県および和歌山県（農村WH）</b> 農村ワーキングホリデーを活用した都市農村交流の「鏡効果」と農村再生手法としての可能性の検証	<b>有田市（箕島地区）</b> 箕島で暮らす多世代の住民による魅力再発見/子どもまちづくりワークショップ
15:50～16:05	<b>那智勝浦町</b> 地域の文化や風習の体験を通じて、地域住民と触れ合い、地域・自分・社会のより良いあり方・つながり方を考える	<b>田辺市龍神村</b> 「林業×地域」の再発見による地域将来ビジョン策定とシナリオプランニング
16:05～16:20	<b>岡山県津山市および香川県坂出市</b> 瀬戸内カレッジ2021	
16:20～16:30	休憩&活動成果をまとめたポスターの閲覧	
16:30～16:35	メインルームへ移動	
16:35～17:15	総括・閉会あいさつ @メインルーム	

# 和歌山県和歌山市

## 加太・磯の浦エリアにおける

## 観光映像を活用した地域振興



### 【地域の基礎データ】

人口：354,708 人（令和 3 年 10 月 1 日現在）

高齢化率：30.5%（令和 3 年 1 月 1 日現在）

産業：製造業、農業、漁業 など

### 【活動の基本情報】

参加学生数：23 名（1 回生：19 名、2 回生：4 名）

活動期間：令和 3 年 5 月～

担当教員：木川剛志

### 1. 活動実施の経緯

この活動では、和歌山市と南海電気鉄道株式会社と一緒に、加太さかな線プロジェクトを応援しました。加太さかな線は住民にとっても大切な路線です。その路線をこれからも維持するために、観光目的でも促進していきたい。そのために PR が必要なので、共同で使うハッシュタグを考えたり、それを実際に使ってみたりしました。また、若者視点で観光資源や魅力の発掘、またそれらを紹介する映像制作なども行なって加太さかな線を PR するという計画でした。しかし、実際には多くの予定していたイベントが新型コロナウイルス拡大のために中止となり、活動は限定的なものとなってしまいました。

### 2. 活動の内容

限られた回数のイベントへの参加となってしまいましたが、その一つとして磯ノ浦海水浴場の朝の清掃活動に参加しました。これは南海電気鉄道株式会社の社員の方々が自主的に行っている活動です。一緒に清掃し、海のプラスチックゴミの問題などを体験しました。また、めでたい列車“かしら”の PR のために開催された海賊をテーマとしたコスプレ大会においてもスタッフとして参加しました。これらの参加に加えて、沿線についてはそれぞれの学生たちが自主的に調査し、その結果を「#加太スタグラム」のハッシュタグで発信したりしました。

### 3. 活動を通じて

イベントを中心とした活動になる予定だったので、新型コロナウイルス拡大の影響を大きく受けてしまい、ほとんどのイベントが中止となったため、成果は限定的でした。しかし、この LIP は一回生も多かったことで、彼ら自身が地域振興の意味を考える大切な機会にはなりました。また、企業と自治体が共同で進行する事業に参加して、企業や自治体のスタイルを勉強することもできました。



#### 4. 成果物（ポスター）

## 加太・磯の浦LIP

加太・磯の浦LIPとは、南海電気鉄道や地域の観光協会と連携し、地域の魅力を再発掘し、SNS等での情報発信や観光映像の制作等による効果的な魅力の発信に取り組み、交流人口の増加を目指すLIPです。

### SNSを盛り上げよう

和歌山市と南海電鉄との会議の際、加太・磯の浦地域には大きな魅力があることを認識しました。その一方で、ここで指摘されたのはイベントのマンネリ化です。そこで、「学生たちがInstagramで盛り上げよう！」とハッシュタグを作りました。



### 磯の浦ビーチクリーン

磯の浦海岸の清掃作業に参加しました。大きなごみはほとんどなく、磯の浦海岸の美しさを知ることができました。また、周辺の観光地をまわることもできました。



めでたいでんしゃ  
medetai train

### かしらイベント参加

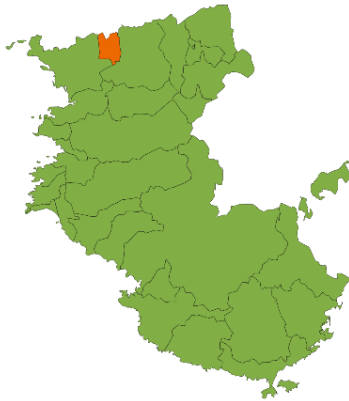
南海電鉄加太線の新しいラッピング電車であるかしらのお披露目に参加しました。主に当日の宣伝、盛り上げを担当しました。周辺のお店が電車の中にブースを出し、地域の人とも触れ合うことができました。



南海電鉄加太さかな線観光列車「めでたいでんしゃ」  
<http://www.nankai.co.jp/kada/medetai.html>

# 和歌山県岩出市

## 道の駅「ねごろ歴史の丘」利用者調査 及び利用促進企画



### 【地域の基礎データ】

人口：54,113 人（令和 3 年 10 月 1 日現在）

高齢化率：23.5%（令和 3 年 1 月 1 日現在）

産業：製造業、農業 など

### 【活動の基本情報】

参加学生数：7 名（1 回生：2 名、2 回生：5 名）

活動期間：平成 30 年 5 月～

担当教員：永井隼人

### 1. 活動実施の経緯

和歌山県岩出市は根来寺や和歌山県植物公園緑花センターなどを有し、また近年では道の駅ねごろ歴史の丘を中心に観光振興に力を入れている。しかし、観光客の市内での滞在時間が短いこと等が課題となっている。岩出市 LIP では 2019 年度から岩出市産業振興課、ねごろ歴史の丘管理協会と連携し、岩出市の抱える課題に取り組んでいる。2019 年度は道の駅での利用者調査、スタンプラリーの開発を行った。2020 年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、オンラインでの活動（文献調査、事例研究、SNS 分析）を中心に、道の駅での調査も実施した。2021 年度は、オンラインでの活動を継続しながら、道の駅の更なる知名度の向上、利用者の増加を目指し、関係機関と連携しながら活動を行うこととなった。

### 2. 活動の内容

まず、2020 年度に実施した SNS 分析の結果を学術的にまとめなおし、7 月に開催された第 10 回観光学術学会学生ポスターセッションにて発表した。この発表は優秀賞を受賞という評価をいただいた。年度後半は、SNS 分析の結果を踏まえ、観光 PR 動画の作成に向けて、現地視察を含む活動を行った。新型コロナウイルス感染症の影響もあり、実際に動画の作成までは行うことができなかったが、来年度も引き続き活動を行っていく予定である。

### 3. 活動を通じて

昨年度に引き続き、今年度も新型コロナウイルス感染症拡大のため、現地での活動機会が少なくなりましたが、オンラインでの活動を継続するなど、道の駅をフィールドに活動を継続することができた。またこのような状況下においても、参加学生は地域の方々と連携しながら地域の課題を学ぶという貴重な経験を得ることが出来た。

#### 4. 成果物（ポスター）

# 岩出市 LIP2021

## 道の駅「ねごろ歴史の丘」 利用者調査及び利用促進企画

宮井 凜晴 / 大山 梨央 / 五味 晴香 / 杉本 情 / 諏訪 葉瑠奈 / 東 美玖 / 上山 歌奈子

### 道の駅「ねごろ歴史の丘」

和歌山県の北の玄関口に位置し、平成29年にオープンした道の駅である。岩出市にある史跡根来寺を紹介する「ねごろ歴史資料館」や、県内の観光情報を提供する情報提供コーナー、県内のお土産を取り揃えた物販施設、飲食施設などがある。京奈和自動車道からのアクセスも良く、新たな観光拠点としての役割を担っている。



地図：「地理院地図」（国土地理院）(<https://maps.gsi.go.jp/#11/34.287857/135.341537/&base=pale&ls=pale&disp=1&vs=c0j0b0k0l0u0t0r0s0m0f1&d=m>)をもとに作成

### これまでの活動内容

道の駅「ねごろ歴史の丘」を訪れる人の実態調査や、道の駅を拠点とした利用促進企画の提案・実施などを行ってきた。

2019年度
当道の駅の利用者実態調査
スタンプラリーを活用したイベント実施
2020年度
日本の道の駅に関する勉強会
当道の駅に関するInstagram投稿の分析
当道の駅を訪れる自動車のナンバープレート調査

### 投稿分析で優秀賞を受賞！

前年度に行った「Instagram投稿データ分析」をさらに整理し、2021年7月に行われた「観光学術学会第10回大会学生ポスターセッション」にて発表した。17件のエントリーのうち、得票数第3位で優秀賞を受賞した。分析結果をまとめ、全国の学生の前で発表するのは苦労したが、この経験を今後の活動や学生生活に活かしていきたい。



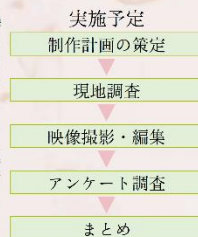
### 現地視察の実施

今年度から新たに参加した1年生を中心に、道の駅「ねごろ歴史の丘」をはじめ、根来寺や旧県議会議事堂「一乗閣」など、根来地域の現地視察を行った。道の駅を拠点とした根来地域の観光促進を図るため、道の駅から歩いて根来寺を訪れ、地域を1周して道の駅に戻った。  
・事前ミーティング：6月10日  
・現地訪問：9月24日



### PR映像の制作と検証

道の駅「ねごろ歴史の丘」を拠点とした根来地域周遊散策をPRする映像を制作することを計画。制作した映像を用いてアンケート調査などを実施し、それを基に根来地域の観光に関する分析を行い、今後の観光促進に繋げる予定である。継続な活動として来年度にかけて実施していく。

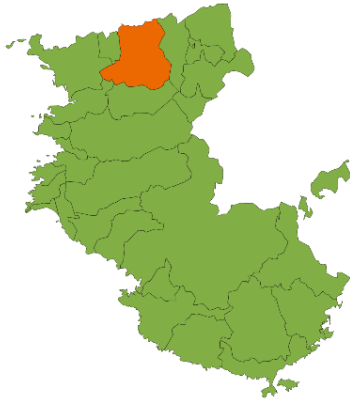


### 活動を通じて…

- ・ポスター発表では、活動の成果を評価していただくことができ、自分達の活動への自信をつけることができた。
- ・LIPに初めて参加したが、自分なりに地域について考えることができた。
- ・利用促進企画では、実現性も含め、計画を立てることがとても難しいと感じた。
- ・活発な現地活動を行うことはできなかったが、少人数での現地訪問を通じて、実際に訪れることの大切さを学んだ。
- ・来年度は、さらに地域と関わることができる活動を目指していきたい。

# 和歌山県紀の川市

## 紀の川スイーツの開発



### 【地域の基礎データ】

人口：58,269 人（令和 3 年 10 月 1 日現在）

高齢化率：32.8%（令和 3 年 1 月 1 日現在）

産 業：農業（桃・柿・キウイ・いちじく）など

### 【活動の基本情報】

参加学生数：13 名（1 回生：5 名、2 回生：5 名、3 回生：3 名）

活動期間：平成 30 年 5 月～

担当教員：竹田明弘

### 1. 活動実施の経緯

紀の川市は、県内屈指のフルーツ王国である。近年、これらの実績をふまえ、紀の川フルーツツーリズムというプロジェクトを立ち上げ、フルーツ王国として知名度を県内外に高めるための活動を行っている。これら紀の川市の一連の活動を考慮し、本活動ではフルーツを使用したスイーツを開発することで、紀の川市に貢献することを目的として実施された。

### 2. 活動の内容

本活動は、参加希望した観光学部学生、紀の川市役所、協力店舗の 3 者の協力のもとで実施したスイーツ開発活動である。本年は、和歌山電鐵株式会社（たまカフェ）、株式会社 藤桃庵+近鉄百貨店 和歌山店、ブーランジェリーフルリール、ムリーノと共同でスイーツの開発を実施した。また活動の成果として、たまカフェについては「恋みくじ付き、バニラシェイク」を開発（4 月末発売）した。また、藤桃庵+近鉄百貨店 和歌山店とは共同で 2022 年度夏発売のお中元アイスを開発している。これについては、現在、5 種類の新開発アイス+昨年度開発のキルシュ香るホワイトチョコとバニラ苺の 6 種類のパッケージを開発、パッケージデザインについてもそれぞれ開発し、現在は最終確認の印刷段階。ブーランジェリーフルリールについてはパン 6 種を 3 月末に発売予定で現在プロジェクト進行中、ムリーノについては、4 月発売にむけてプロジェクト進行中である。

### 3. 活動を通じて

本年も COVID19 感染拡大による対面活動の制限という状況時もあり、必ずしも円滑な活動を実施することは困難であった。また、今年度は近鉄百貨店との共同というこれまでの個店だけでなく、企業を巻き込んだ活動になった。まだまだ継続中の活動も多いが、少しでも地域に貢献できるようなスイーツを開発していきたい。

## 4. 成果物（ポスター）

# 紀の川 LIP

—2021 年度活動報告—

## 紀の川市＝“フルーツのまち”へ

紀の川市は和歌山県北部に位置しています。清流・紀の川の豊富な水資源と山々に囲まれているからこそその肥沃な土壌、温暖な気候を最大限に利用して、1年中、様々な農作物を生産しています。農業産出額全体では和歌山県内1位を誇り、「あら川の桃」をはじめ、はっさく、いちじく、柿、キウイフルーツ、いちごなど四季折々の果物が収穫できる全国有数の果物産地です。

紀の川 LIP は、“紀の川フルーツ”を使用したスイーツの開発を通じて、「紀の川市とそのフルーツの魅力を発信すること」と「協力店舗様をより多くの市民に利用していただき、地域コミュニティを活性化すること」を活動目的としています。そのためには自分たちの“食べたいスイーツ”ではなく、ターゲットに求められている商品は何かを分析し“売れるスイーツ”を開発する必要があると考えています。活動内容は主に、「統計の勉強」「店舗調査」「スイーツ開発」の3つです。統計学に関する書籍や統計ソフトを用いて、収集したデータの見方・分析方法を学習し、活動に役立てています。今年度は、「藤桃庵（近鉄百貨店のお中元用アイス）」をはじめ、「MAISON FLEURIR（パン）」「mulino（チーズケーキ）」の3店舗との商品開発を進めています。次年度は、お中元プロジェクトを拡大し、さらに「紀の川フルーツ」の魅力を全国に広めていきたいと考えています。



### アイス開発

“キルシュ香るホワイトチョコとパニラ苺”が大好評だった昨年に引き続き、藤桃庵さんにご協力いただき、アイスの企画を進めています。今年度は、近鉄百貨店さんの2022年お中元ギフトに掲載が決定しました。柿、イチゴ、桃、キウイをはじめとした紀の川市のフルーツをふんだんに使ったアイスセットを販売予定です。大切な方へのお中元としてぜひご利用ください。



### パン開発

MAISON FLEURIR（メゾンフルリール）さんにご協力いただき、企画を進めています。無添加・天然酵母のパンをベースに味はもちろん、見た目にもこだわり、視覚でも季節を感じられるパンを目指しています。また、今回は紀の川フルーツを使用したパン以外に、紀の川市の食材を使った総菜パンにもチャレンジさせていただきました。4月上旬頃に販売予定です。是非ご賞味ください。

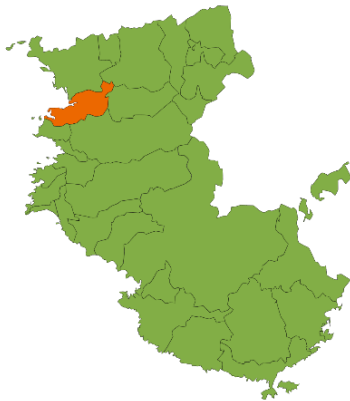


### チーズケーキ開発

ムリーノさんにご協力いただき、スイーツの企画を進めています。ムリーノさんのメニューにあるチーズケーキをアレンジし、ベイクトチーズケーキ、スフレチーズケーキ、バスクチーズケーキの3種類を食べ比べることのできるプレート企画です。その中に、紀の川市のフルーツを入れることができると考えています。5月上旬に販売予定です。是非ご賞味ください。

# 和歌山県海南市

## 交流・関係人口増を目指した エリア体験型観光コンテンツ開発



### 【地域の基礎データ】

人口：47,514 人（令和 3 年 10 月 1 日現在）

高齢化率：36.6%（令和 3 年 1 月 1 日現在）

産業：製造業、家庭日用品産業 など

### 【活動の基本情報】

参加学生数：6 名（1 回生：3 名、2 回生：3 名）

活動期間：令和 2 年 6 月～

担当教員：藤田武弘

### 1. 活動実施の経緯

下津町大崎地区に「げんき大崎館・かざまち」が設置（H27 年）されて以来、毎週土曜日の「朝市（新鮮な地元農水産物と地元原料に拘った手作りのお惣菜等を販売）」や各種体験交流イベントの開催など、地域内経済の循環をはじめ地区内外の住民にとって貴重な交流の場を提供してきた。しかし、著しい高齢化の進行により、交流人口・関係人口を増やすことが急務であるとの認識から、大学生など「よそ者・若者」の目線から地域の資源を再発見することの必要を痛感し、LIP 参加学生と協働でのプロジェクトの立ち上げを企画した。

### 2. 活動の内容

コロナ禍で学生の対面型での活動が大きく制約を受ける中、現地事務局（地域おこし協力隊員）とのオンラインでのミーティングを積み重ね、コロナ収束後の域学連携活動の再開に向けた観光学部学生を対象とした大崎地区の取り組みに対する認知度アンケート調査（Web）を実施し、その結果を現地パネル展示等の手法で地域還元した。また、朝市等の訪問客を対象とする地域資源の魅力に対するアンケート調査票（コロナ禍でも実施可能な留め置き回収方式）を作成した。また、感染拡大が収束状況にあった秋口に現地訪問が実現し、学生と地域住民との交流機会がようやく確保された。

### 3. 活動を通じて

複数年度での活動提案とはいえ、コロナ禍により 2 年に及ぶ活動制約期間があったことの影響は大きい。オンラインでの意見交換を駆使して現地受入事務局との密度の濃い意見交換が行われていることから、最終年度に向けた活動のまとめに期待したいところである。

#### 4. 成果物（ポスター）



長谷川 珠希② 佐野穂奈美①  
藪野 愛② 番場麻帆①  
武子 遼音② 藤田理瑚①  
担当教員：藤田武弘教授

#### 【基本情報】

～海南市～

海南市は和歌山県の北西部沿岸に位置する人口約5万人の市です。

～活動状況～

私たちは海南市の中でも北西にある大崎地区を主な活動地としています。今年は感染拡大防止のため現地へ行くことはほとんどできませんでしたが、山と海に囲まれた自然豊かな地域です。奥まった港や山道を抜けた先にある小さな街並みは思わず写真に収めたくなるほど魅力的です。

～活動メンバー～

2年生3人、1年生3人の計6人で活動しています。

#### 【活動目的】

- 大崎地区を知り、げんき大崎の方と交流を深める
- アンケートにより学生層の需要を理解する
- 交流・関係人口増を目指すための知識を深める

#### 【活動内容】



活動開始

6月

オンラインアンケート

10月・11月

現地訪問

11月

地域のイベントに参加

12月

対面アンケート作成

#### 【活動成果】

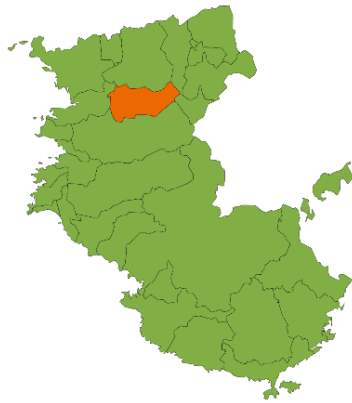
- ・地域資源を使って今後行いたい企画が明確になった  
Ex)無人島を使ってのキャンプイベント
- ・細かな意見と情報を得ることができた  
高齢者から子供まで様々な層が利用していること、  
そして、多様なニーズを見出していること
- ・地域の文化祭（展示会）で大崎の人々の  
“くらし”を知ると同時に、より多くの人に  
私たちの活動を知ってもらうことができた

#### 【今後の目標】

- ・アンケートを生かしたイベントを企画する
- ・大崎地区の魅力を発信し、より多くの人に知ってもらう
- ・地域の方々との交流を深める

# 和歌山県海草郡紀美野町

## きみのげんきマップの作成



### 【地域の基礎データ】

人口：8,055 人（令和 3 年 10 月 1 日現在）  
高齢化率：47.1%（令和 3 年 1 月 1 日現在）  
産業：棕櫚製品製造業、農業 など

### 【活動の基本情報】

参加学生数：5 名（2 回生：5 名）  
活動期間：平成 27 年 4 月～  
担当教員：永瀬節治

## 1. 活動実施の経緯

紀美野町では、平成 27 年度より世代間交流の推進を目的として企画されたコミュニティカフェ「にこカフェ」の運営をテーマに取り組んできた LIP の後継プログラムとして、令和 2 年度より、地域住民に地域の強み・魅力を再度認識してもらい、地域ならではの情報を整理し共有するツールとなる「きみのげんきマップ」の作成をテーマにした活動に取り組んでいる。令和 3 年 1 月には住民を対象としたアンケート調査を行い、居住歴や町への愛着、地域活動の認知度や参加状況、どんな地図があればいいか等について把握した。

## 2. 活動の内容

前期は昨年度実施したアンケート調査の結果の取りまとめ作業を行った。その後、半期で担当教員が変更となったこともあり、引き継ぎとアンケート集計結果の報告も兼ねる形で、9 月に受け入れ担当者との顔合わせを行なった。11 月には受け入れ担当者に車を用意していただき、町内の主要スポット等の現地訪問を行った。のかみふれあい公園や生石高原、近年人気の古民家等を活用した飲食店等を見学するとともに、地域の高齢者の交流の場となっている地域サロンを訪問して参加者との交流を行うことができ、学生たちにとっても貴重な経験となった。

## 3. 活動を通じて

昨年度からのコロナ禍の影響により現地での活動が制約される中で、今年度のメンバーの中には一度も紀美野町に足を運べていない学生も見られたが、今年度は現地訪問や地域の方々との交流の機会を設けたことで、学生たちが自ら地域資源の状況を把握し、実体験に根ざしたマップの検討が行えるようになった。年明けにも別の地域サロンや飲食店等の訪問を計画していたが、オミクロン株の急拡大により見合わせる事となった。

来年度は引き続き情報収集や現地調査を進め、具体的なマップのイメージの検討も行いながら完成に向けて作業を進める予定である。



#### 4. 成果物（ポスター）

和歌山大学 × 紀美野町

# きみのげんきマップ LIP

## 活動目的

きみのげんきマップでは、地域住民に向けた新たなマップ「きみのげんきマップ」の作成を最終目的に活動している LIP です。紀美野町は少子高齢化が著しく進んでいる地域でありながら、サロン活動などを通して元気があふれている地域です。今年度は「紀美野町のことをさらに深く知る」ことをモットーに、様々な活動を展開しました。

Our Purpose

## 2021年度活動報告

### 今年度の活動

#### 定例ミーティング



毎週 1 回、昼休みの時間を使っての定例ミーティングを行いました。  
8 月ごろまでは、昨年度実施したアンケートを報告書としてまとめ上げる最終作業を行いました。9 月には、紀美野町役場保健福祉課の方との顔合わせに向け、今年度の LIP の方針などを打ち合わせしました。後期に入ってから、現地実習に向けてどこを訪問するかや何を目的にするかのミーティング、地域サロンで聞きたいことのもまとめ作業を行いました。  
また、紀美野町の魅力を発信するためのインスタグラムを始めるきっかけとなったのも、週 1 のミーティングからでした。

#### 現地実習



現地実習を行った同日、紀美野町で活動されているサロンの一つである「永谷サロン（サロン柿の実）」に訪問させていただきました。サロンでは、いきいき百歳体操という長生きするための健康体操を体験させていただいたり、茶話に参加させていただきました。  
初めて参加させていただいた私たちにも優しく接してくださり、地域の方との交流をする有意義な時間となりました。また、こうして地域の人の憩いの場を育む大切さも学びました。このサロン訪問で、紀美野町の方の元気、長寿の秘訣が少し分かったような気がします。

11 月 13 日（土）にきみのげんきマップ LIP 初となる現地実習を行いました。2020 年度は一度も現地に赴くことができなかったため、念願の現地実習となりました。現地実習では、「紀美野町の良さを実際に肌で感じる」ことを目的に、紀美野町の有名スポットやメンバーが気になる場所を中心に足を運びました。ジェラートで有名な「kiminoka」や土曜日のみオープンしている「岳人」、すずきの名所「生石高原」など幅広いスポットを訪れました。  
また、紀美野町は想像していた以上に、各スポットや地域ごとの距離が離れており、移動の不便さを体感することができました。

#### サロン訪問



Activity of This Year

## 来年度に向けて

今年度の活動では、念願の現地実習も行うことができ、昨年度に比べて、紀美野町のことを深く知ることができました。来年度は本来のきみのげんきマップ LIP の目的である、マップ作成に向けて取り組みを進めていく予定です。  
また、紀美野町の情報発信を目的に始めた、インスタグラムの情報も充実させていく予定です。

For Next Year

Instagramにて情報発信中！



follow us

KIMINOMAP\_LIP

# 和歌山県海草郡紀美野町

## 地区×学生による観光・文化・交流情報発信と 棚田の再生



### 【地域の基礎データ】

人口：8,055 人（令和 3 年 10 月 1 日現在）

高齢化率：47.1%（令和 3 年 1 月 1 日現在）

産業：棕櫚製品製造業、農業 など

### 【活動の基本情報】

参加学生数：16 名（1 回生：4 名、2 回生：5 名、3 回生：6 名、  
4 回生：1 名）

活動期間：平成 30 年 4 月～

担当教員：佐野楓

### 1. 活動実施の経緯

2017 年度まで 6 年間に渡り、紀美野町の上神野地区で発動してきたこの LIP は、一昨年  
から地域を新たに紀美野町の小川地区で活動を進めてきた。本 LIP は新しいメンバーを加  
えて、2021 年 7 月に小川の郷づくり会さんと顔合わせをした後に、本格的に活動をスター  
トした。しかし、今年度も新型コロナウイルスの影響で、小川地区の方々と参加学生の健康  
と安全へ配慮し、オンライン活動を中心となり、現地でのフィールドワークを最小限にした。

### 2. 活動の内容

今年度の活動で重要視していたのは、地域との繋がりを再確認し、強くするというもの  
であった。具体的に、①4 月 28 日棚田再生事業に伴う地域住民との共同作業（伐採樹木等  
の除去作業）；②10 月 17 日の紀美野町中田地区の棚田再生と棚田ガイド研修；③12 月 18  
日の紀美野町中田地区のマルシェ運営補助であった。

### 3. 活動を通じて

参加学生はオンライン会議を通じて、小川 LIP に  
関する様々なことを積極的に取り組んできた。また、  
フィールドワークを通して、紀美野役場の方や地域  
おこし協力隊の方々とも仲良くなることができた。  
更に、それらの活動を読売新聞に掲載することがで  
きた。



#### 4. 成果物（ポスター）

# きみの 紀美野町小川LIP

地区×学生による観光・文化・交流  
情報発信と棚田の再生

## 紀美野町小川地区

和歌山県の北部に位置する紀美野町。その中でも壮大な自然に溢れる小川地区。中田の棚田をはじめとした観光地が存在します。近年、その自然に魅せられ多くの移住者が訪れるようになっていきます。

## 小川LIP

私たちは3回生6名、2回生5名、1回生4名で活動しています。学生視点での地域振興を目標としています。積極的に現地へ足を運び、現地の人たちの協力のもと活動を行っています。

ここが 私のアナザースカイ。

## 今年度の主な活動

- 中田の棚田 再生活動  
棚田内の草刈り、不要な木材の撤去、ゴミ収集など景観に関わる作業を中心に行いました。
- 棚田サミットでの現地ガイド  
10月に行われた棚田サミットにおいて、中田の棚田を案内する現地ガイドを務めました。外部の方々に対し、いかにして中田の棚田再生事業の難しさを伝えるか試行錯誤を繰り返し、無事に成功を取ることができました。
- イベントの運営、補助  
棚田deキャンプ、リポートレッキング、棚田deマルシェなどのイベントにおいて運営の補助を行いました。
- 宿泊研修  
古民家を改修した宿泊施設「風の森」で宿泊研修を行いました。生石山の登頂などを通し、紀美野町にたくさん触れた2日間でした。また、読売新聞様に取材をしていただき、私たちの活動を多くの方に発信する契機にもなりました。

詳しい活動風景はこちらから→→→

## 来年度に向けて

- 各SNSの活性化⇒これまで以上に紀美野町の魅力を発信します！
- 毎週会議の設定⇒定期的にLIP内で情報共有し、企画を進めます！
- オンラインでも対応可能な企画づくり  
⇒コロナ禍で進めることを前提とした企画を作成・進行します！

### 各SNSにて発信中！

Twitter Instagram Facebook

# 和歌山県有田市

## 箕島で暮らす多世代の住民による魅力再発見 / 子どもまちづくりワークショップ



### 【地域の基礎データ】

人口：26,027 人（令和 3 年 10 月 1 日現在）

高齢化率：34.5%（令和 3 年 1 月 1 日現在）

産業：農業（みかん）、漁業（太刀魚）、工業 など

### 【活動の基本情報】

参加学生数：8 名（1 回生：2 名、2 回生：4 名、  
3 回生：1 名、4 回生：1 名）

活動期間：平成 29 年 6 月～

担当教員：永瀬節治

### 1. 活動実施の経緯

有田市箕島地区では、平成 29 年度より有田市社会福祉協議会や箕島地区の地域活動団体である「ワンハート」と連携しながら、多世代交流を通じた地域活性化に向けた活動に取り組んでいる。令和 2 年度からはコロナ禍により現地での活動が制約される中で、地域の子供たちから大人までが交流できるような企画としてオンライン音楽会に取り組むなど、内容を工夫しながら実施できる活動を進めてきた。

### 2. 活動の内容

前期には、昨年度に学生たちが提案し、ワンハートとともに取り組んできた折り鶴モザイクアートの制作を進め、完成した作品は 7 月に有田市立病院に設置することができた。


加えて、社会福祉協議会との連携により、第 3 次有田市地域福祉活動計画の策定に向けて課題や取り組みを共有するための「まちづくりワークショップ」の運営に関わった。コロナ禍の影響によりオンラインでの開催となったが、9 月と 10 月の 2 日間行われ、当日は地元の中学生から高齢の方まで 15 名が参加した。学生たちは事前に行政計画等を読み込んで把握した地域課題の発表や、冒頭のアイスブレイク、参加者の意見の記録などを担当した。

2 月上旬には、市内の高校生や地域の取り組みと LIP の活動について共有しながら交流を図る「異世代活動報告会」がオンラインで開催（収録）され、学生たちは LIP の活動報告に加え、全体の司会も担当した。動画は社会福祉協議会の Web サイトで公開されている。


### 3. 活動を通じて

まちづくりワークショップを終えた学生たちは、その経験も踏まえながら、今後 3 年間の箕島 LIP のアクションプランを自主的に検討し、地域での交流促進を図るための具体的な目標を設定した。来年度も同プランに基づき、引き続きワンハートや社会福祉協議会等の地域の方々と連携しながら、多世代交流を推進するための実践活動を進める予定である。

#### 4. 成果物（ポスター）



# 箕島 LIP



### 箕島LIPとは？

箕島は和歌山県有田市の地区の1つです。有田市は和歌山県西北部に位置し、人口は約3万人です。有数のみかん産地で、みかん鶏や太刀魚、しらすなども特産品です。

箕島LIPは箕島地区を中心に、有田市社会福祉協議会と商店会・商工会議所が中心のまちづくり団体「ワンハート」の2つの受入先と協働して活動しています。

### 2021年度活動テーマ

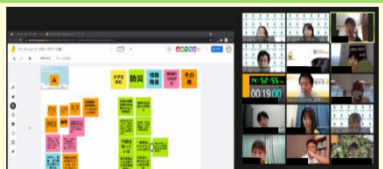
箕島で暮らす多世代の住民による魅力再発見 / まちづくりワークショップ

### まちづくりワークショップ

このワークショップは『第3次有田市地域福祉活動計画』の策定過程の1つとして、有田市社会福祉協議会主催で行われました。**多世代の住民**で有田市について話し合い、住民主体で有田市をより良くするためには**何ができるかを考える**ことが目的です。9月と10月に2日間の日程で開催され、中学生から高齢の方まで15名がオンラインで参加されました。

その中でLIPの学生は、行政資料から読み取った**有田市の課題についての発表、アイスプレイクの運営、話し合いの書記**などを担当しました。

ワークショップの最後には参加者・学生の一人ひとりがアクションプランを発表し、自分には何ができるかを考える機会になりました。



<h4>1 少子高齢化</h4> <ul style="list-style-type: none"> <li>○少子化：人口減少</li> <li>○高齢化：地域コミュニティ（組織）の危機</li> <li>○高齢者一人世帯の増加、介護者の負担軽減のために地域が必要とされることは何か</li> <li>→地域で支える環境づくりが必要</li> </ul>	<h4>2 地域</h4> <ul style="list-style-type: none"> <li>○管理・運営・企業との連携による「共有」の意識が低い</li> <li>○担い手の確保、育成ができていない</li> <li>○高齢者への参加が難しい</li> <li>○危機感が強まっているのではないかと</li> <li>○連携調整への積極的な参加はできているのか</li> </ul>
<h4>3 情報発信</h4> <ul style="list-style-type: none"> <li>○発信する情報が地域に行き渡らない</li> <li>○イベントが知られることなく終わる事例を多く見られる</li> <li>○発信がうまくいっていないのか</li> <li>○オンライン活動の継続、イベント本来の意味が伝わりづらい</li> <li>○イベント開催まで経って</li> <li>→緊急活動の継続、担い手不足を引き起こす</li> </ul>	<h4>4 地域のつながり</h4> <ul style="list-style-type: none"> <li>○気軽に集える場所がある</li> <li>○つながりができていない</li> <li>○情報が行き渡らず参加者が集まらない</li> <li>→地域のつながりの強化</li> <li>○地域から集まる方が集まらなくなってしまう</li> </ul>

### 箕島LIPアクションプラン

ワークショップを経て箕島LIPが3年後に目指すまちの姿と、その実現のために取り組むことを考えました。

○長期目標〈3年後の年度終了時〉

会話をすることや深くつながっていくことを**交流**とし、一度できたつながりが継続されていて別の場所であった時に気軽に話しかけられる状態を目指す

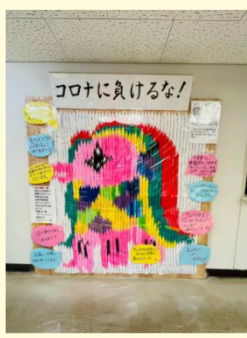
○1年目：情報受信 - インターネット講習会

○2・3年目：多世代交流 - 交流の実態調査、多世代交流の機会創出、効果検証

### ワンハートとの協働

昨年度、箕島LIPから「折鶴モザイクアート」を提案し、今年度はその制作を行いました。

7月には完成品を有田市立病院へ設置することができました。



### 活動の反省点・改善点

①リハーサルについて  
実践的な練習やトラブルの想定、継続メンバーからのアドバイスが不足していたことで本番で臨機応変な対応ができませんでした。今後は、余裕のあるスケジュール管理とともに全員でトラブルの対応策を考え、共有することに努めます。

②ワークショップ後の振り返りについて  
振り返りではそれぞれの求める完成度の違いから反省点を引き出せないことや反省点を次に活かせないことがありました。今後は、事前に細かな行動目標を決め全員の足並みを揃え、反省を対策まで落とし込み次に繋げることに努めます。

③メンバー間の情報共有について  
会議欠席者への対応が不十分であることから内容が伝わりきらないことがありました。今後は、会議冒頭に前回の振り返りを行い、また気軽に質問し合えるようLINEの活用方法を見直すことに努めます。

# 和歌山県有田市

## 青みかん（摘果みかん）の価値を上げる



### 【地域の基礎データ】

人口：26,027 人（令和 3 年 10 月 1 日現在）

高齢化率：34.5%（令和 3 年 1 月 1 日現在）

産業：農業（みかん）、漁業（太刀魚）、工業 など

### 【活動の基本情報】

参加学生数：15 名（1 回生：3 名、2 回生：6 名、3 回生：6 名）

活動期間：令和 2 年 6 月～

担当教員：藤田武弘

### 1. 活動実施の経緯

有田市では地域住民や一般企業などと協働して有田みかんの更なるブランド化や販路開拓支援、ふるさと納税を活用した PR など、みかん産業支援を積極的に実施している。そこで、これまで実施してきた取り組みを踏まえた新たなチャレンジとして、毎年みかん収穫前にみかんの大きさを揃えるために成りすぎた果実を減らす作業（摘果作業）によって捨てられている「青みかん（摘果みかん）」の価値向上に取り組むことを LIP の活動目的とした。また、令和 2 年 3 月に有田市宮原町の旧駐在所をリノベーションして誕生した地域交流拠点「宮原さん家(ち)」を活動拠点とし、その活用についても検討することとなった。

### 2. 活動の内容

新型コロナウイルス感染症の影響により、オンラインと現地訪問を上手く活用し、以下の活動を行った。また、地域の課題・学生のニーズを受け、商品開発班・レシピ作成班・イベント企画班・広報班に分かれて積極的な活動を行った。

- ・クラウドファンディングによる活動資金の調達を行った
- ・地域からのアドバイスを受けて青みかんのレシピ・新規商品開発を行った
- ・地元小学校で地域資源活用に関する食育授業を行った（地域での活動可視化に貢献）
- ・他大学等との連携イベントに参加し、活動の普及啓発と交流ネットワーク機会を得た

### 3. 活動を通じて

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、本来予定していた活動が出来なかった中で、オンラインを活用し可能な限りの活動が展開された。また、資金調達や食育を通じた活動の可視化など、プロジェクトが「社会実装化」していく様に関わったことで、より大きな学びを得て、メンバーの成長に繋がったと考える。更なる取り組みの展開に期待したい。

#### 4. 成果物（ポスター）



### 概要・全体

宮原青みかんLIPは2020年度から始まったLIPで、有田市宮原地区を拠点に活動しています。私たちは①全国的に有名な有田みかんの生産途中で摘果という作業で破棄されてしまう青みかんを有効活用し、価値を再発見するため、②地域の人を巻き込んだイベントを開催し、地域活性化を図っていくためという大きく2つの活動目的を掲げて活動を続けています。今年度は全体の活動として9～10月にクラウドファンディング、11月には大阪天王寺で行われた関西の大学が集まるイベント「ハルカス学園祭」への出展など、様々な活動を行うことができました。各班の活動では、昨年度考えた企画を形にしていける作業や、出た課題を解決することを進めていきました。

### レシピ班

レシピ班では、青みかんを使ったレシピ「宮原のメモワール」を考案し、郷土料理化を最終目標にして取り組んでいます。10月に地域の方をお招きして行ったオンラインでの試食会では、「おいしい！」という生の声を聞くことができました。今後も新たなイベントや、新レシピの開発に取り組み、地域の方により親しみを持っていただけるように頑張ります！



### 商品開発班

商品開発班では、青みかんを活用した様々なものの商品化に向けて活動しています。クラウドファンディングのリターン品として乾燥した青みかんを使ったレジストラップを提案し、作成しました。また、みかんカードや入浴剤の試作も行っています。今後は地域のお店と連携、協力していく予定です。青みかんの利用法がもっと広まり、地域の方にも使っていただけるようにこれからも活動していきます。



### イベント班

イベント班は12月に宮原小学校にて青みかん授業を実施しました。子どもたちはみかんに親しみはあるものの、摘果されてしまう青みかんについてはあまり知らないということで、授業では青みかんをどのように活用することができるかについてグループで話し合いました。元気いっぱい小学生からは多くの斬新なアイデアをもらうことができました。今後も地域の子どもたちと交流できるイベントを企画・実行していきます！



### 広報班

広報班は今年度よりSNSの運用を本格的に始めました。今年度の主な活動は、9月から10月にかけて行われたクラウドファンディングの宣伝活動とLIPのロゴ考案です。インスタグラムは現時点でフォロワー285人を獲得しています。今後は、さらなるフォロワーの獲得とフォロワーの皆さんにより私たちの活動を知ってもらえるよう、各班と連携して定期的な投稿を行っていきたくと考えています。



### 今後の展開

今年の1月から、大阪市立大学の学生・OBの皆さんが有田市で活動を行っている「元気ふるさとづくりサポーター」と協働で会議・イベント企画を行っており、来年度には地域で行うイベントや青みかんを使った商品開発を本格的に合同で行っていく予定です。イベント企画や地域との関わり方をLIP側が学べるということ、青みかんの商品・レシピ開発についての経験による資源の活用についてを発信できるという相互的な協働のメリットを活かして、さらに地域に貢献していけるように力を注いでいきたいと思います。

# 和歌山県有田郡広川町

## ツギー谷のお花畑の活用を通じた 津木地域の活性化を考える



### 【地域の基礎データ】

人口：6,705 人（令和 3 年 10 月 1 日現在）

高齢化率：34.2%（令和 3 年 1 月 1 日現在）

産業：農林業、漁業、製造業 など

### 【活動の基本情報】

参加学生数：17 名（1 回生：5 名、2 回生：7 名、  
3 回生：4 名、4 回生：1 名）

活動期間：平成 26 年 6 月～令和 4 年 1 月

担当教員：永瀬節治

### 1. 活動実施の経緯

本 LIP では、広川町津木地区の活性化に取り組む津木地区寄合会（以下、寄合会）の活動を平成 26 年度より支援している。これまでに、寄合会の活動拠点である「ツギー谷のお花畑」（以下、お花畑）におけるイベントの企画運営や、地域内外の出店イベントでの加工品の販売、「稲むらの火」の舞台である広地区での活動等を寄合会と連携し実践してきた。

### 2. 活動の内容

今年度もリニューアルされたお花畑の活用を中心とした活動を計画していたが、コロナ禍に伴い諸条件が十分に整わず、オンラインでの意見交換以外に、津木地域での活動を行うことができなかった。一方で、10 月には和歌山市駅近くの紀の川河川敷での社会実験「夕暮れのシエキノカワでピクニック。」に参加し、津木地域の薬草茶や露茜ジャムなどの特産品販売、子供たちを対象とした体験ワークショップを行ったほか、11 月には広川町広地区と湯浅町の現地訪問を行い、同時期に開催されていた「エモい町 湯浅広川フォトコンテスト」に参加した。コンテストでは学生たちが撮影した写真が優秀賞を受賞することができた。

### 3. 活動を通じて

今年度はプログラムの最終年度となったが、上述の通り津木地区での活動を実施することができなかった。寄合会をはじめとする地域の方々との実質的な交流の機会も設けることができず、この点は非常に心残りな点である。一方で、広川町 LIP は 2014 年度より活動を継続しており、地域と学生との協働関係を築いていることから、来年度以降は学生主導 LPP として再スタートする方向で検討を進める予定である。



## 4. 成果物（ポスター）



和歌山大学観光学部

# 広川町 Local Internship Program

ー ツーギー谷のお花畑の活用を通じた津木地域の活性化を考えるー

### 広川LIPの活動について

私たち広川LIPは、広川町津木地区の「魅力発見」と「魅力発信」を目的に活動しています。津木地区寄合会の方々と連携して2014年から活動を続けています。今年で8年目になる広川LIPは、今年度は1回生5名、2回生7名、3回生4名で活動に取り組みました。昨年に引き続き、広川町津木地区のお花畑の活用に関わることを目的としていましたが、新型コロナウイルスによる課外活動の制限により、現地での十分な活動を実施することが困難でした。今年度はオンライン上や学内での会議の活動がメインでしたが、GGPへの出店と現地訪問から得た経験を今後の活動に生かされるようにしていきたいです。



### 2021年度 スケジュール

- 6月 スメンバー集合合わせ(Zoom)
- 7月 事前学習
- 8月 寄合会の方との顔合わせ(Zoom)
- 10月 GGP
- 11月 現地訪問
- 12月 フォトコンテスト

### 2021年度活動報告

#### 事前学習

広川LIPの活動地域である広川町・津木地区についての事前学習を行いました。今年度から参加した1年生・2年生が主体となって、広川町、津木地区の2つのチームに分かれ、それぞれ対象地域について調べたことをまとめて発表を行いました。この発表は新メンバーのみならず、既存メンバーの地域に関する知識の確認にも役立ちました。現地訪問が十分にできない中、地域についての基本的な知識を得て、地域に関心を持つことを目的に行いました。調べ学習を行う中で地域への興味が溜り、現地訪問を行いたいという気持ちが強まりました。

#### GGP

広川LIPとして、市駅「グリーングリーン」プロジェクト(GGP)に出店させていただきました。広川町津木地区の特産品の販売・子供向けの体験イベントを実施しました。特産品の販売では、津木地区で採れた葉草を使用したお茶や「露西」と呼ばれるスモモと梅の交配種を使用した「露昔ジャム」の販売を行いました。特に露昔ジャムは大人気で、完売でした。子供向けの体験イベントでは、手形アートとぶんぶんゴマのブースを作り、学生が作り方を説明した後、子供たちの自由な発想でお絵描きをしてもらいました。物販も体験イベントも今年度初の対面の大きな活動だったため、イベント後には達成感を得ることができました。GGPに出店した経験が、今後このようなイベントを再び行いたいという思いにつながりました。

#### 現地訪問

今年度は、広川町への現地訪問を1回実施しました。新型コロナウイルスの影響で現地訪問を行う機会が無く、新メンバーにとっては初めて、既存メンバーにとっては久しぶりの現地訪問でした。今回の訪問では、広八幡神社・稲村の火の館・耐久社・広村堤防を順番に回り、事前学習でも調べた場所に実際に訪問しました。稲村の火の館では、津波にまつわる展示やビデオを見て、津波がもたらす被害の大きさを感じるとともに、濱口梧陵の偉大な功績についても知ることができました。広村堤防には、松の木がたくさん植わっており、これも広川町における津波への対策であることを実際に目で見て確認することができました。次年度は、現地訪問をもっと頻繁に行い、広川町地域の方々と協力して様々な活動を行いたいと感じました。

また、現地訪問の際に撮影した写真を「エモい町海浅広川フォトコンテスト」に応募しました。広川LIPが撮影した写真は、風景部門「優秀賞」を受賞しました。



(左：現地訪問での写真、右：優秀賞を受賞した写真)

Instagram : @hirogawa lip #inamura fire



# 和歌山県日高郡美浜町

## アメリカ村の観光コンテンツの発掘及び情報発信



### 【地域の基礎データ】

人口：6,673 人（令和 3 年 10 月 1 日現在）

高齢化率：36.9%（令和 3 年 1 月 1 日現在）

産業：漁業、農業 など

### 【活動の基本情報】

参加学生数：9 名（1 回生：9 名）

活動期間：令和 2 年 5 月～

担当教員：東 悦子

### 1. 活動実施の経緯

2021 年度は「アメリカ村の観光コンテンツの発掘及び情報発信」というテーマのもとに、2020 年度に引き続き、美浜町で活動を実施した。

### 2. 活動の内容

美浜町の基本情報やカナダへ移民を輩出した歴史的背景などから学び始めた。その後、本年度のテーマを踏まえ、「コンテンツ班」と「SNS 班」に分かれ、自主的に活動を重ねた。美浜町役場の方々ともミーティングを行い、LIP 学外研修ガイドラインを遵守し、少人数での現地訪問も実施した。また、同町で活動している京都外国語大学ともオンラインによる交流授業を実施し、互いの活動内容を発表した。今年度の総括として、コンテンツ班は、次年度に日御碕灯台の開放日にマルシェを開催することを目標とした。SNS 班は、インスタグラムで美浜町を紹介し、英語も使用することで海外の人々への発信にもつながったが、今後は具体的な数値目標を定めて、さらなるフォロワー数の獲得を目標とした。

□ 美浜町とオンラインミーティング：2021年7月2日・12月23日・2022年1月11日

□ 現地訪問：9月27日・12月2日・1月15日

□ 京都外国語大学学生との交流授業：12月21日

□ 取材（学生の活動が紹介される）：2022年1月19日「紀州新聞」・2月11日「日高新報」

### 3. 活動を通じて

全員が 1 年生という新メンバーで活動を開始した。当初は担当教員が主導したが、その後、班による自主的な活動が重ねられた。本年度もコロナ感染症の影響を受けたが、オンラインと対面の活動を組み合わせつつ、次年度につながる活動を展開し、学生の成長ぶりがうかがえた。最後に、本活動を支えてくださった美浜町役場の田中敦之氏、山八加奈氏、カナダミュージアム館長の三尾たかえ氏に深謝いたします。

#### 4. 成果物（ポスター）

# 美浜町LIP

## 美浜町とは？

美浜町三尾地区は明治時代以降、多くの住民が漁場を求め、カナダへ移住した移民の町です。カナダから帰国した人達が洋風の建物を建てたり、日系カナダ人が多く住んでいたり、三尾地区の異国情緒あふれる姿から、次第に「アメリカ村」と呼ばれるようになりました。

## 活動目的

観光コンテンツの“発掘”及び“情報発信”



- ・ 美浜町の魅力を引き出す観光資源の発掘
- ・ Instagramでのアメリカ村の魅力の発信

## 活動内容

### 会議

- ・ 週に一度、2つの班に分かれて会議を実施
- ・ 美浜町についての勉強会やこれからの方針を熟考、決定

### 現地訪問

- ・ カナダミュージアム、煙樹ヶ浜、日御碕灯台など美浜町の観光施設の視察
- ・ 美浜町役場の方からの現状報告
- ・ Instagram用の写真撮影

### Instagramの運営

- ・ 美浜町で撮影した写真や動画を不定期に投稿
- ・ 美浜町の魅力を全世界へアピール



カナダミュージアム

## 今後について

- ・ カナダミュージアムでのマルシェの開催
- ・ 夏季限定コンテンツの紹介
- ・ マニアに向けての投稿の強化
- ・ Instagramフォロワー1000達成

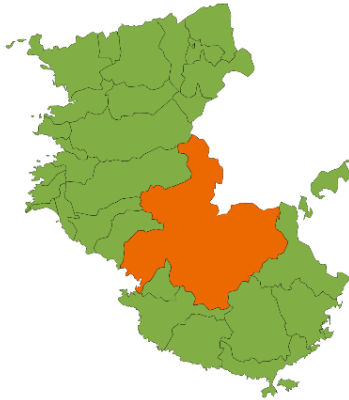


Instagram  
フォロワー  
1000  
達成  
を  
目指  
し  
ま  
す  
！

AMEMURA\_W

# 和歌山県田辺市龍神村地域

## 「林業×地域」の再発見： 森林・林業を活かした地域将来ビジョンづくり



### 【地域の基礎データ】

人口：68,844 人（令和 3 年 10 月 1 日現在）

高齢化率：33.2%（令和 3 年 1 月 1 日現在）

産業：農林業、漁業 など

### 【活動の基本情報】

参加学生数：3 名（1 回生：2 名、3 回生：1 名）

活動期間：令和 3 年 5 月～

担当教員：大浦由美

### 1. 活動実施の経緯

田辺市龍神村地域は、和歌山県下でも有数の林業地として知られているが、田辺市との合併以降、人口流出が続いており、高齢化も進行している。本地域の維持・発展のためには、地域随一の資源である森林資源の活用は不可欠である。そこで、林業だけでなく、より多様な林産物や森林空間の活用等を含めて現場に学び、「森林・林業を活かした地域将来ビジョン」の作成とその実現方策の検討・提案を目指して活動を開始した。

### 2. 活動の内容

- (1) 林業・特用林産物に関する事前学習（8/27・ハイブリッド開催）
  - ・和歌山県および龍神村の森林・林業・木材産業（県庁林業振興課・大澤一岳氏）
  - ・和歌山県の特用林産物（県林業試験場・坂口和昭氏）
- (2) 現地視察およびヒアリング（12/4～5, 11）
  - ・木材生産の流れを知る：龍神村森林組合→原木市場→製材所→木質バイオマスボイラー
  - ・林業を知る（龍神村）：安全対策とチェーンソー基礎講座，間伐見学，植林地見学
  - ・特用林産物を知る：シイタケ原木栽培（伊藤泰造氏）→シイタケ菌床栽培（龍神マッシュユ）→花木栽培（森林工房・大江俊平氏）
- (3) 資源地図の作成（1/9）＊次頁参照
- (4) 現地報告会（2/20・オンライン開催）

### 3. 活動を通じて

当初の計画では、資源地図を踏まえて地元関係者とのワークショップを行い、地域将来ビジョンの作成を目標としていたが、今年度は到達できなかった。次年度は、「龍の里づくり委員会」の取り組みなど、より幅広い地域づくり活動にも視野を広げ、ビジョンづくりに繋げたい。

#### 4. 成果物（ポスター）

2021年度 龍神LIP 岡田・栗川・小西・築地

## 「林業×地域」の再発見

～森林・林業を活かした地域将来ビジョンづくり～

今年度に発足したばかりの龍神 LIP は、1年生2人と3年生2人に加え、大浦ゼミ3年生からの参加者2人の、計6人で活動しています！

古くから林業が盛んな龍神村（田辺市）で、森林を活かした「地域将来ビジョン」を地域の方々と共に考え、住民の皆さんに提案していきます。

今年度は、龍神村や和歌山県の林業、特産林産物について事前学習をしたうえで、実際にその現場で見学や体験を行いました。



### 現地学習と資源地図作成

現地学習後のワークショップでは、各メンバーが 20 枚程度の写真を持ち寄り、龍神村でピンときた点を話し合いました。持ち寄った写真は、1枚ずつコンセプトなどを説明しながら、意味が似ているものをグループにしています。そこから、グループ間の相関関係を記号にして書き出し、龍神村の魅力や課題を可視化した「資源地図」を作成しました。

資源地図のタイトルは、「龍神ブランドの確立～人々の愛と森林の恵みを受けて～」です。龍神村には、豊富な木材資源やシイタケ・榎などの特産林産物があります。しかし、それらは単なる自然の恵みではなく、そこに人の愛情やこだわりが詰まって「龍神ブランド」を形成していると、私たち LIP メンバーは感じました。



2月20日のワークショップでは、この資源地図をもとに地域の方々と話し合いながら、龍神村の「地域将来ビジョン」を検討していきます。

# 和歌山県東牟婁郡那智勝浦町

地域の文化や風習の体験から地域住民と触れ合い、  
地域・自分・社会のより良いあり方・つながり方を考える。  
興味関心に応じた地域のプログラムを通じて知見を深め、  
今後に繋がる価値の創出をめざす。



## 【地域の基礎データ】

人口：13,896人（令和3年10月1日現在）

高齢化率：42.5%（令和3年1月1日現在）

産業：林業、水産業、観光業 など

## 【活動の基本情報】

参加学生数：1名（3回生：1名）

活動期間：平成28年6月～

担当教員：八島雄士

## 1. 活動実施の経緯

色川ならではの行事や風習への参加を通し、学生の知見を深めることを中心に活動し、実施報告会など地域住民と交流する機会を設け、住民の「鏡効果」醸成にも寄与しています。

## 2. 活動の内容

色川地区は、早くから移住者を受け入れてきた地域として有名ですが、訪問する小阪区は、比較的移住者は少なく、昔からの地域行事や風習が残っています。棚田や茶畑が地域資源として知られています。そんな色川地区で、地域の現状や地域文化に根差した価値観や人生観、生き方にじっくりと触れ、色川でしか得ることの出来ない学びを行いました。2021年度の活動はコロナ禍で活動が制限されるなか、オンラインで移住者における地域への結びつきや地域活動の実態を知るワークショップ、色川を中心とする地域交流の一つとして地場産品を使用したクラフトビールプロジェクトに関わりました。

## 3. 活動を通じて

コロナ禍で、地域活動が十分にできないなかで、オンラインで代替できないこともありますが、地域住民との交流など、地域を訪れなくとも経験できる学びもあると気づきました。「移住者にインタビューを行い、複雑な地域における活動の見える化をする」というオンラインワークショップでは、地域住人として携わる活動は想像よりも複雑であることがわかりました。また、地場産品を使用したクラフトビール企画にスタッフとして関わり、色川地区内外の多くの方に価値や魅力を伝えることができました。今後は、実際の地域課題に対して、コロナ禍であっても現地活動を軸に、補完的にオンラインを活用し、地方だからこそできる活動として、学生と地域住民との関係性を築くことを続けていきます。

#### 4. 成果物（ポスター）

## 和歌山大学観光学部 地域インターンシッププログラム（LIP）2021

### 那智勝浦町色川地区



地域の文化や風習の体験を通じて、地域住民と触れ合い、地域・自分・社会のより良いあり方・つながり方を考える（興味関心に応じて）地域をフィールドに、それぞれの知見を深め、価値を創出していく

#### 色川地区について

那智勝浦町色川地区は、那智勝浦町の中心部から山間部へ車で30分ほど走った所に位置する、9つの区から成る、人口が300人ほどの小さな地域です。かつて盛況していた鉱業が1970年代に廃止となり、地域の人口は外部へと流出していきましました。しかし、同時期より外部からの移住者を積極的に受け入れ、現在では地区全体の人口のおよそ半分を移住者が占めるまでになりました。ただ、LIPの活動を行って行っている小阪区は、他区と比べ移住者は少なく、その代わりに地域の行事や風習が比較的残っている地域となっています。



地域資源としては、美しい棚田や茶畑が有名であります。特に「小阪の棚田」は、一度休耕田となった棚田を移住者を含む地域住民が主体となり再興させ、現在も関係人口の方々などを交えた保全活動が定期的に開催されています。

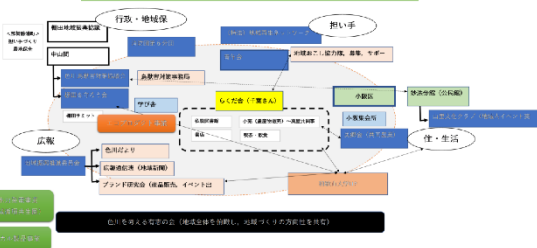
#### 色川地区でのLIPについて

2016年度から活動を行ってきた那智勝浦町色川地区におけるLIPは、色川ならではの行事や風習への参加（フィールドスタディ）を通し、学生の知見を深めることを中心に活動を行ってきました。また、活動を通して「学生が感じたこと」を地域住民に発表する場を設けることで、住民のいわゆる「鏡効果」醸成にも寄与してきました。2021年度は、これまでの活動をベースにしつつ、棚田などにまつわる地域の課題解決に向けた具体的なアクションを起こすことで、地域の課題を「自分ごと」にする取り組みも予定していました。

#### 2021年度活動報告

2020年度の活動は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、当初の計画通りの活動を出来ませんでした。しかし、現地を訪れなくても出来る活動を考え、実行することで、学生の学びを深めました。

##### 移住者の暮らしからの学び



9月30日、那智勝浦町色川の移住者である千葉さん、和歌山大学の八島先生、学生の鈴木の3人で移住者における地域活動の見える化を行うワークショップを開催しました。上記の図からも分かるように移住者の地域活動はかなり複雑であり、地方に住むということは、地域の一人住人として様々な地域活動に携わる必要があるということを知りました。

千葉さんが携わっている地域活動は、①生業である「らくだ舎」の活動や地域の広報としての活動、②地域活動（保全や行政）としての活動、③地域で暮らしていくための活動、④地域の伝統や文化を残していく担い手としての活動の4つのままとりに分けることが出来ました。

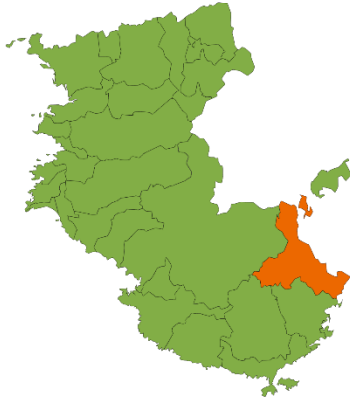
#### 色川を中心とする地域交流からの学び



2021年4月、色川地区と和歌山大学の共同活動として「色川ビールプロジェクト」は誕生しました。色川地区の一部では生活用水として用いられている「神聖な那智滝の源流水」と、色川で収穫することが出来る様々な産品を組み合わせて「色川ビール」を醸造しました。コロナ化でオフラインの交流が出来ない中、色川に実際に訪れずとも「色川との繋がり」を感じる事が出来るようなビールを作成しました。実際に色川住民や那智勝浦町民だけでなく、和歌山県内外の多くの方々にビールを通じて色川の魅力を伝えることが出来ました。

# 和歌山県新宮市

## 新宮市高田区における観光モデルコースの造成



### 【地域の基礎データ】

人口：26,759 人（令和 3 年 10 月 1 日現在）

高齢化率：37.5%（令和 3 年 1 月 1 日現在）

産業：製材業、製紙業、漁業、林業 など

### 【活動の基本情報】

参加学生数：9 名（1 回生：5 名、2 回生：3 名、3 回生：1 名）

活動期間：令和 2 年 6 月～令和 4 年 1 月

担当教員：尾久土正己

### 1. 活動実施の経緯

新宮市は和歌山県南東部に位置し、熊野三山の一つ「熊野速玉大社」が鎮座するまちとして栄えてきた。高田区は新宮市中心部より西側に位置し、かつては高田村として発展してきた地域である。この高田区について、地域の魅力ある観光資源が存在しているにも関わらず、若年層を中心に十分な誘客ができていない状況にあり、これらの地域における誘客は新宮市の観光において重要となる。そこで、実際に現地での交流や地域の観光資源の体験を通して、様々な観光事情や魅力を知ってもらうこと、それについて広く発信できる力を身につけてもらうことを目的とし、学生主体での新鮮な観光モデルコースの造成を行うこととした。

### 2. 活動の内容

2021 年度は、新型コロナウイルス感染症のために現地研修ができず、オンラインでの交流だけ終わってしまったが、今年度は 10 月と 1 月に 1 泊 2 日の現地研修を 2 回実施することができた（1 月は人数を 2 人に絞って実施）。10 月の現地研修後は、新宮市役所商工観光課の担当者と zoom を使い、週 1 回の頻度でミーティングを重ね、目標であるモデルコース案を 2 コース造成することができた。出来上がったコース案の確認のために 1 月下旬に 2 回目の現地研修を行い、完成させたのが右ページのモデルコースである。

### 3. 活動を通じて

「これまで学んできた経営的観点や地域活性化についての知識と、現実の問題を照らし合わせながら実践的な学習をすることができた」（2 回生）など、学部での講義科目で得た知見を現場で活用することができたと多くの学生が答えており、理論と実践、座学と実習の両輪の必要性を改めて確認することができた。



4. 活動を通じて

2021年度

# 新宮市高田区LIP

～新宮市高田区における観光モデルコースの造成～

**<高田区の現状>**

高田区は地域の魅力ある観光資源が存在しているにも関わらず、若年層を中心に十分な誘客ができていない。

**<今年度の活動目標>**

新宮市高田区と連携し、現地での交流や観光資源の体験を通して、学生主体での新鮮な観光モデルコースの造成を行う。

自然と歴史を味わう  
のんびり女子旅

男の新宮旅

**<現地研修1回目（10月）>**

新宮市側に組んでいたいただいたプランに基づき、高田地区・新宮市内の各所を訪問。夜には星空観察を行い、新宮市における星空観光の可能性について模索した。

**<現地研修2回目（1月）>**

代表者2名が新宮市を訪問し、造成したモデルコースの確認と修正を行った。1回目で訪れられなかった場所にも行き、モデルコースの改良につなげた。

# 和歌山県全域

## 「紀の国わかやま文化祭2021」 学生による文化の魅力発信



### 【地域の基礎データ】

人口：913,523人（令和3年10月1日現在）

高齢化率：32.8%（令和3年1月1日現在）

産業：農林業、漁業、製造業 など

### 【活動の基本情報】

参加学生数：7名（1回生：5名、2回生：1名、3回生：1名）

活動期間：令和2年6月～令和4年1月

担当教員：加藤久美

### 1. 活動実施の経緯

和歌山県では、第36回国民文化祭・わかやま2021と第21回全国障害者芸術・文化祭わかやま大会（「紀の国わかやま文化祭2021」）が令和3年10月30日から11月21日までの23日開催された。全国的な規模による発表、競演、そして障害のある人もない人も共に参加し、交流の輪を広げる国内最大の文化の祭典として県では初めての開催となった。県内外から多くの参加があり見込まれたことから、全国に和歌山県の文化を発信し、県民の文化力を向上させる機会となった。本事業は、学生が文化の魅力を発信することにより、本文化祭の認知度の向上と開催機運の醸成を図ることを目的としている。

### 2. 活動の内容

年度はじめの緊急事態宣言や課外活動自粛により規制期間もあったものの、6つの活動を事前取材、2つのボランティア参加、また和歌山城ホールで開催された開会式にも参加した。これらの活動を文化祭HPや公式SNSを通じて発信することができた。

- 1) 事前取材 6(白浜Tシャツアート展、太地町「海を越える紀州」など)
- 2) ボランティア参加 2(加太カダハク、和歌山市太鼓の祭典)
- 3) 個人参加 (吹奏楽の祭典、など)

### 3. 活動を通じて

紀の国わかやま文化祭を通して、音楽や美術、演劇、歴史など様々なジャンルの和歌山の文化を知ったり、SNSでの発信を通して多くの人に和歌山の魅力を発信したりすることができた。このLIPは今年度で終了するので、ここで得た経験を普段の学生生活や、他の課外活動で活かしていきたい。

#### 4. 成果物（ポスター）

### 紀の国わかやま文化祭LIP

3回生（1人） 2回生（1人） 1回生（5人）



#### 紀の国わかやま文化祭とは

- ・和歌山県で開催される文化芸術活動の発表、競演、交流等を行う国内最大の文化の祭典。
- ・キャッチフレーズは「山青し 海青し 文化は輝く」

#### 活動目的

- ・文化祭のさらなる周知、参加意欲を高めるため、学生自身が事前取材をすることにより、魅力を発信していく。

#### 活動内容

- ・事前取材（白浜町.太地町.湯浅町.和歌山市.田辺市）

#### 海を越える紀州 太地町 (10/23)

- ・紀州の移民や太地町について教えてもらった。



#### 醤油のまち 湯浅町 (10/10)

- ・醤油作り体験
- ・湯浅の歴史について教えてもらった。



#### 開会式 (10/30)

- ・有名人だけでなく、学生や障がい者の発表もあり、県民全員が主役である文化祭を体現していた。



期間中は和歌山市でボランティア活動にも参加しました！

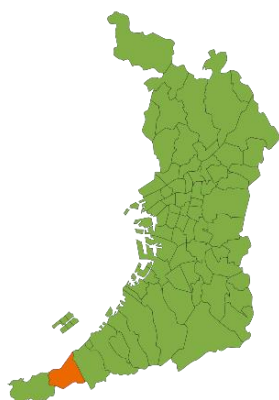
・太鼓の祭典 ・カダハク

#### 感想・まとめ

・事前取材や体験を通し、今まで知らなかった音楽や美術、演劇、歴史などの和歌山の文化を肌で感じた。また、文化の視点から和歌山の魅力を再発見することができた。さらにSNSでの投稿を通して多くの人に和歌山の魅力を発信し、伝えることができた。本当に貴重な機会で、これを機にもっと和歌山について知りたいと思った。このLIPは今年度で終わってしまうため、もう少し文化体験ができればさらに良かったが、この経験を普段の生活に活かしていきたい。

# 大阪府阪南市

## 古代米を活用した商品開発、PR に関して。 「古代米をおいしく食べる」



### 【地域の基礎データ】

人口：52,294 人（令和 3 年 12 月末現在）

高齢化率：33.5%（令和 3 年 12 月末現在）

産業：紡績業、漁業 など

### 【活動の基本情報】

参加学生数：4 名（1 回生：4 名）

活動期間：令和 2 年 6 月～

担当教員：佐々木壮太郎

### 1. 活動実施の経緯

2018 年度から引き続きの活動である。昨年度から阪南市商工会が主体となって実施する「はんなん古代米プロジェクト」の活動に参画し、今年度は古代米を使ったレシピ考案や PR を中心とした活動内容となっている。

### 2. 活動の内容

「はんなん古代米プロジェクト」は、阪南市で古代米を栽培し、古代米を利用した商品を市内企業が展開することによって、それらを地場産品として位置づけ、ブランド力の強化と地域全体の活性化を目指す取り組みである。昨年度と同様に、コロナ禍の影響で現地での学生の活動が制約される中、テレビ会議への参加のほか、古代米（黒米）を用いたオリジナルレシピを考案し、それらを Instagram を用いて情報発信、自分たちでチラシを作成して産業フェアで PR を行なうなどといった活動に取り組んだ。

### 3. 活動を通じて

今年度もコロナ禍の収束を見通すことは困難であったが、阪南市の産業フェアへ参加するなど、わずかとはいえ現地での活動も行なうことができた。地域連携による活動の経験にあたっては、いろいろと反省することも多かったと思われるが、これをひとつのきっかけとして今後の学生生活に活かして行ってほしい。

（古代米プロジェクト）  
阪南市商工会 × 和歌山大学コラボ

## 古代米

**古代米とは？**  
「古代米」とは、私たちの祖先が栽培していた、「古代の稲の品種」を色濃く残した稲のことです。

**栄養成分・効能**

- ① ビタミンEでアンチエイジング
- ② γ-オリザノールという血流を良くしてくれる成分で美肌効果
- ③ アントシアニンで目の疲労回復  
栄養価が高く、ヘルシーなお米です！  
ダイエットをしている方にもオススメです★

**阪南市商工会 × 和歌山大学コラボ！**

和歌山大学では、和歌山県内及びお大阪南部の市町村等の協力のもと、地域が抱える課題を学生が調査する「地域インターンシッププログラム（LIP）」を実施しています。今回は、阪南市の古代米を通して地域活性化の方法を考えています。古代米の魅力を広げると同時に、多くの人に阪南市の魅力を知ってもらいたいと考えています！

#### 4. 成果物（ポスター）

2021年度

# 阪南LIP 活動報告

活動テーマ・ **古代米をおいしく食べよう！**

**黒米くん**  
LIPのみんなで考えた  
イメージキャラクター♪

1. 活動目的

- ・ 阪南市の特産品である、古代米・黒米の認知度向上のため。
- ・ 古代米をPRをすることで阪南市をより多くの人に知ってもらう。

2. 経緯

- ・ 阪南市商工会が古代米プロジェクトを始める際、学生と共同して斬新なアイデアも取り入れたいとのことから和歌山大学LIPに声をかけていただきました！

3. 活動内容

**レシピ開発**

「お家で気軽に作れる」をモットーにレシピ開発を進めました。  
黒米の特徴を生かしたレシピが完成しました♪

- ・ キンパ
- ・ チヂミ
- ・ みたらし団子
- ・ トマトクリームリゾット
- ・ ハンバーグ etc...

**はんなん産業フェア**

阪南市商工会主催の「まちおこしイベント」。21回目を迎えた今年度は「来て！見て！食べて！はんなんし！」というテーマで、物産展を中心に開催されました。  
そこで古代米の販売やチラシ配りなどで古代米のPRを行いました♪

**Instagram開設**

古代米を通してより多くの人に阪南市の魅力を知ってもらうため、Instagramを開設しました。  
オリジナルレシピ等の情報を発信しました♪  
右のQRコードから見てみてください！

**阪南市ってどんな町？**  
大阪府南部、人口約5万人。  
漁業、農業ながさかんで豊かな自然環境に恵まれたまち。

**HANNANSHI\_KUROMAI**

4. 反省と今後の展望

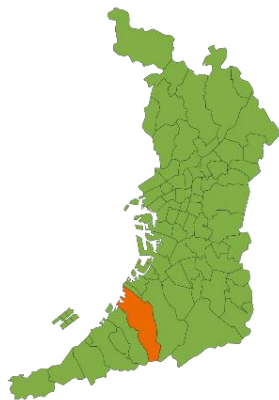
コロナ禍で現地にあまり行けず、商工会、市役所の方々、メンバー同士のコミュニケーションが不足。話し合いを深めることによって、もっと斬新なアイデアを生み出せたらよかった。

↓

少しでも新しい考えが思い浮かんだらメモに残す、共有することが大切。  
また今後は飲食店とのコラボやパッケージデザインなど活動を広げたい。

# 大阪府岸和田市

## 港湾エリアにおける持続可能なまちづくり (岸和田港まっりの企画・運営)



### 【地域の基礎データ】

人口：194,911 人（平成 27 年 10 月 1 日現在）

高齢化率：25.8%（平成 27 年 10 月 1 日現在）

産業：繊維業、製造業、農業 など

### 【活動の基本情報】

参加学生数：8 名（1 回生：5 名、2 回生：3 名）

活動期間：令和 3 年 5 月～

担当教員：竹林 明

### 1. 活動実施の経緯

岸和田市の臨海部は平成 31 年 4 月に「みなとオアシス岸和田」の登録を受け、さらなる活性化を目指している。また昭和 28 年から続く「岸和田港まつり」が岸和田市の夏の風物詩となっており、持続可能なイベントとして継承していくことを目標としている。こいしたなか「みなとオアシス岸和田運営協議会」や学生・地域の若年層の方々等とも連携した新たな取り組みが企画された。新型コロナ禍下の新たな形式での実施方法を共に検討していくなかで岸和田港まっりの企画運営などを通じた持続可能なまちづくりについて協力していくこととなった。

### 2. 活動の内容

本年度は「岸和田港振興協会 70 周年、市制 100 周年記念事業に向けた企画考案」、「Instagram を用いた宣伝活動」（アカウント名「和歌山大学 岸和田港湾 LIP」）、「Sea 級グルメの開発」、「和田 TV MODE 出演」などを実施した。思うように現場に出られない状況ではあったが遠隔会議などを駆使して精力的に活動した。

### 3. 活動を通じて

新型コロナウイルスの影響により活動に制限はあったものの、地域と関わるのが初めての経験である 1 回生だけでなく、昨年度思うような活動が出来ずにいた 2 回生にとっても、本活動は岸和田港湾エリアについて学び地域と関わる良い機会となった。学生間だけでなく行政や漁協など地域の方々との連携活動によりチームワークを体感した。来年度以降も岸和田市との関係を続けるとともに、地域課題について自発的に取り組んでいきたい。

#### 4. 成果物（ポスター）

和歌山大学 観光学部

## 岸和田港湾LIP

2021年度活動報告

岸和田港湾LIPでは、大阪府の岸和田市さんと共に、コロナ禍における新たな形での「岸和田港まつり」の企画・運営を予定していましたが、しかし昨今の新型コロナウイルスの影響により、「岸和田港まつり」の開催が中止となり、今年度は、国土交通省より登録を受けている「みなとオアシス」を活用したSea級グルメの開発を主に行ってまいりました。

### ●2021年度活動内容

#### ◆Sea級グルメ開発

開発では、岸和田市の港でとることが出来る魚介類などを活用したものを作りたいと思い、ネットでの調べ学習から、現地の漁協などに聞き込みに行ったり、様々な年代や性別の方にアンケートを取ったりなどして、試作案を作りました。何もない状態からの試作だったので、いかに私たちの色を出し、いかに岸和田市でとれる有名な魚から市場に出回らない魚まで活かすことが出来るのかをたくさんの時間を重ねて会議を開き試作案を出しました。



#### ◆岸和田tv MODE出演

岸和田TV MODEに出演させていただき、岸和田港湾LIPの活動や今後の展開について紹介してきました。本来ならば、現地での出演予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のためZoomでの参加となりました。これまでの活動での写真やインスタグラムのアピールもすることができました。岸和田市長の永野様からも賛辞の言葉をいただき、さらなる活動の拡大に拍車がかかる貴重な機会となりました。



#### ◆インスタグラムの開設・投稿

インスタグラムのアカウントを作成し、岸和田市の魅力発信に努めました。インスタグラムでは、岸和田市の情報・施設・お店や、LIP参加者による現地視察の様子を紹介しています。現在では、フォロワー数が530人を突破することができ、岸和田市がより多くの人の目に留まるようになりました。これからも岸和田市の魅力を発信し続けていきます。

岸和田市の魅力  
発信中！



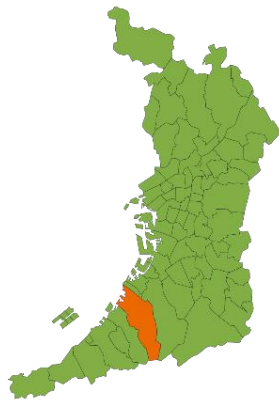
### ●今後の活動について

岸和田市は来年で市制施行100周年、岸和田港振興協会70周年を迎えられます。そこで、私たち学生がこの記念すべき行事を盛り上げるべく、この岸和田港湾LIPとして、港湾エリアの魅力を伝えられるような企画案を考えています。また、新型コロナウイルス感染拡大の中で感染予防に努めながらも、岸和田市に目を引くことができるような方法を模索しようと考えています。Sea級グルメの開発に関しては、試作案を基に、大阪府鰯巾着網漁業協会さん、並びに「きんちゃく家」さんと共同で試作を重ねて、100周年イベントで出店される屋台などのブースをお貸しいただき販売の実施を行っていかようと考えています。

@kouwanlip

# 大阪府岸和田市

## 景観資源活用による景観意識の向上と 地域の賑わい・活性化への貢献



### 【地域の基礎データ】

人口： 194,911 人（平成 27 年 10 月 1 日現在）

高齢化率： 25.8%（平成 27 年 10 月 1 日現在）

産業： 繊維業、製造業、農業 など

### 【活動の基本情報】

参加学生数： 4 名（1 回生： 3 名、2 回生： 1 名）

活動期間： 令和 3 年 5 月～

担当教員： 堀田祐三子

### 1. 活動実施の経緯

岸和田市は大阪府下では、早くから景観行政に取り組み、歴史的な景観の保全や良好な景観形成を推進してきた。2012 年から実施している「ここに残る景観資源発掘プロジェクト」では、市民が発掘した「景観資源」を審査して、「ここに残る景観資源」として指定することを通じて、市民の景観意識の啓発を進めている。本 LIP では、このプロジェクトで指定された景観資源について、市民の景観意識の向上を図ることに加え、地域の賑わいにつながる利活用方法を検討・提案することを目的としている。

### 2. 活動の内容

岸和田市の景観と観光に対する取り組みについての学び、観光資源および景観資源の現地視察、景観資源を結ぶルート案の作成を行った。ルート案についての議論において、景観資源に対して観光という観点からの再評価が必要であるとの認識を踏まえ、今年度の活動後半にその評価の方法の検討と、事前評価を行った。

### 3. 活動を通じて

初年度は、コロナ禍の影響もあり試行錯誤の活動であった。資源評価の材料と基準を整え、引き続き評価作業を進め、利活用策の検討につなげていく必要がある。SNS といったツールを利用した調査や、写真撮影および情報発信のセンスやスキルを活かして、資源利活用方策の可能性を追究していくことになろう。また利活用を考えるうえで景観資源と周辺の地域資源を結び付けていくことも今後の検討課題である。

プログラムを進めていくなかで、参加学生の景観をみる眼と景観資源に対する理解を向上させるとともに、地域へのコミットメントを高めることを期待したい。



#### 4. 成果物（ポスター）

# 岸和田景観LIP

## 岸和田市の紹介

岸和田市は、大阪府南方に位置する海と山に囲まれた自然豊かなまちである。人口は約20万人。だんじり祭りが全国的な知名度を誇っており、歴史ある古い街並みが今なお残っている。

## 活動目的

○「ここに残る景観資源」を利用した周遊、鑑賞の仕組みづくり  
つまり・・・  
景観資源を利用し、  
岸和田市を盛り上げていこう！

## 主な活動内容

6月

- ・顔合わせ
- ・現地視察&岸和田市役所へ訪問

9月

- ・仮ルート案を各自作成し、市役所の方々にプレゼン発表&議論
- ルートの存在意義とは？

10月

- ・景観資源の分析（岸和田市についての調査、フォトコンテストとの比較など）

12月

- ・現地実習
- ・景観資源の評価（アクセス、魅力度など）

## 見えてきた課題

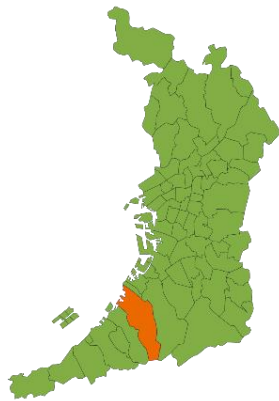
- ・景観資源の価値が弱く、観光地ほどの集客力がない  
→どのように生かしていくか？
- ・プロジェクトへの応募数が少なく、市民の認知度が低い  
→応募数を増やすための工夫を

## 来年に向けて

- ・SNSを利用した情報発信
- ・より市とLIPの繋がりを増やし、連携の取れた政策を

# 大阪府岸和田市

## 岸和田市とアドベンチャーワールドが創る 未来の Smile とは



### 【地域の基礎データ】

人口：194,911 人（平成 27 年 10 月 1 日現在）

高齢化率：25.8%（平成 27 年 10 月 1 日現在）

産業：繊維業、製造業、農業 など

### 【活動の基本情報】

参加学生数：7 名（1 回生：2 名、2 回生：4 名、3 回生：1 名）

活動期間：令和 3 年 5 月～

担当教員：竹林浩志

### 1. 活動実施の経緯

岸和田市の丘陵地区に位置する「ゆめみヶ丘岸和田」では、都市・農・自然が融合した新しいまちづくりが進められており、その中で岸和田市とアドベンチャーワールドとの間で「SDGs パートナシップ協定」を締結し、さまざまな取り組みを展開していく予定となっており、現在は「パンダとともに未来を創るプロジェクト」と題して、ゆめみヶ丘岸和田の広大な放置竹林から竹の枝葉をパンダの飼料として提供し、残った竹幹部分を加工して竹の工芸品等、里山再生と資源循環を促す取り組み等を開始している。

そこで、2021 年度は、地域資源を用いた観光 PR や、ゆめみヶ丘岸和田に立ち寄ってアドベンチャーワールドに行くような観光コースの発掘等、地域の活動に参加しながらアフターコロナをいかに乗り越えていくかを模索することを目的にして活動をはじめた。

### 2. 活動の内容

そもそも「ゆめみヶ丘岸和田」とアドベンチャーワールドのそれぞれの現状および考えられている方向性を理解するために、現地を訪問し、岸和田においては、当地の現状や活動の実態を理解するために聞き取りを行い、アドベンチャーワールドも訪問し、運営会社である株式会社アワーズの事業内容・企業目的などの聞き取りを行った。

そこで得た知識を深めるための調査を予定していたが、コロナ蔓延のため、そこまで得た知見をもとに、オンライン・対面の会議等で現状考えうる方策・方向性を検討した。

### 3. 活動を通じて

結果としては、当初想定していたレベルまでは活動はできなかったが、当活動は次年度も継続される予定であるので、次年度の活動のベースとなる「まとめ」は作成できたと考えている。次年度は、さらに進んだ考えを提案できるところまで活動を進めたい。

#### 4. 成果物（ポスター）

## 岸和田市 × アドベンチャーワールド

### 岸和田市

岸和田市の丘陵地区に位置する「ゆめみヶ丘岸和田」では、都市・農・自然が融合した新しいまちづくりが進められており、今後さまざまな取り組みが展開されていく予定です。



### アドベンチャーワールド

2011年より岸和田市と手を組み、丘陵地区内の竹をジャイアントパンダの食料として使用。その後2020年にパンダが食べ残す竹の有効活用により竹を利用した循環型社会の実現を目指したパンダ協定を結ぶ。



### これまでの活動



**ゆめみヶ丘視察**  
ゆめみヶ丘にある道の駅「愛彩ランド」でのイベントに参加し、地域の現状と今後の展望について話し合いをしました。



**アドベンチャーワールド視察**  
アドベンチャーワールドを訪問し、企業方針や、竹を活かした企業の可能性などを共有しました。また、現在は竹を「竹あかり」に使用しています。



**竹伐採・加工場視察**  
ゆめみヶ丘の竹林関係の方と孟宗竹の特徴や活用法について意見交換をしました。実際に竹を伐採し、加工場に運ぶ作業も行いました。

### 次年度の活動について

- ・岸和田市からアドベンチャーワールドへのモデルコースの作成
- ・竹を活用したアドベンチャーワールドのsmile創造
- ・地域資源を生かした観光PRなど、本年度で得た知識や情報を活かし、ゆめみヶ丘、アドベンチャーワールドならではの価値創造をしていきたい

### 活動の感想

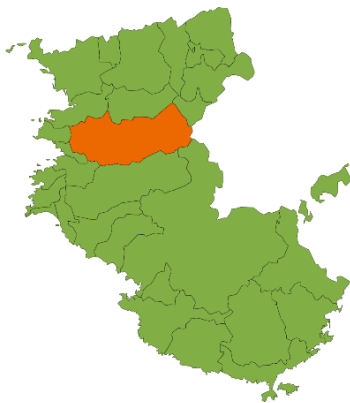
- ・実際の地域に出て活動を行うことにより、大学で得た知識を実践的に使える機会が得られたような気がしました。
- ・自らが竹の伐採をしたりすることで、普段はあまり身近に感じられない竹製品について考えることが出来ました。
- ・SDGsが基盤となった活動ということもあり、今後の社会に活かせる活動になったと思います。

2021年度 岸和田 × アドベンチャーワールドLIP

# 和歌山県有田郡有田川町

## 学生との協働による棚田保全・集落支援活動

(申請タイプ)



### 【地域の基礎データ】

人口：25,080人（令和3年10月1日現在）

高齢化率：31.9%（令和3年1月1日現在）

産業：農業（みかん、山椒、花き）、林業 など

### 【活動の基本情報】

参加学生数：32名（1回生：8名、2回生：6名、  
3回生：10名、4回生：8名）

活動期間：平成23年7月～

担当教員：大浦由美

## 1. 活動実施の経緯

有田川町での第19回全国棚田（千枚田）サミット（2013年度）開催決定をきっかけに、2010年に県が企画した「棚田モニターツアー」に当時の観光学部生約20名が参加した。地域の農業者の高齢化とともに耕作放棄地が増加する当地の現状を目の当たりにして、学生側から「棚田保全ボランティア」のアイデアが出されたことをきっかけに、学内で棚田保全ボランティアへの参加者を募り、「棚田ふぁむ」を結成。2011年7月から活動を開始した。



## 2. 活動の内容

今年度もコロナ禍の影響を受け、現地活動は「山椒収穫支援」と「稲刈り」の2回となった。その他の活動は以下の通りである。

- ・ 定期的なミーティングの開催：学生リーダーを中心として定期的に全体ミーティングを実施し、活動に関する意見交換や議論の他、棚田に関するミニ学習会を開催した。
- ・ メンバー紹介および活動報告誌の作成
- ・ 活動に関するワークショップの開催：コロナ禍が2年に及ぶなかで、現地にほとんど行くことができず、学生にとって活動の意義を見出し難い日々が続いた。そこで、活動開始時から現在までの活動を振り返り、今後の活動の方向性を考えるワークショップを開催した。

## 3. 活動を通じて

コロナ禍が長期化するなかで、これまでの活動形態の見直しを余儀なくされている。現地関係者および行政との議論を重ね、地域にとってよりよい活動を共に模索していきたい。

#### 4. 成果物（ポスター）



#### 棚田ふあむの結成

全国棚田サミット開催に向けて、和歌山県が平成22年に開催した棚田モニターツアーに参加、耕作放棄地が増加する棚田の現状を目の当たりにする。和歌山県と有田川町からの棚田保全活動の提案によって学内で参加者を募り、棚田ふあむ結成。

平成23年度から有田川町沼地区で活動を開始。現在まで10年間活動。当初は棚田の保全を目的に活動していたが、現在は棚田と棚田を保全する地域の人を支える活動をしている。



#### 有田川町沼地区

和歌山県中央部に位置し、「日本の棚田百選」に選定された「あらぎ島」をはじめとして、多くの棚田が点在しています。急傾斜地の棚田が美しく、近年では「ぶどう山椒」の栽培も盛んです。ただ、高齢化が進み、沼地区の人口割合はほとんどは高齢の方が占めています。

そのため、棚田やぶどう山椒もいまはその方たちが栽培可能でも、後継問題や自分たちで栽培ができるかという問題が深刻です。



#### 活動内容



新メンバーとの顔合わせ

6月



山椒収穫支援活動

7月



稲刈り・草刈り

10月



ワークショップ

12月

コロナウイルスの流行により、新メンバーを加えての初めての活動はオンラインでした。今年度は、週に1度の定期ミーティングなどは対面・オンラインどちらでも参加可能なハイブリッド形式で行いました。

今年度初めての対面活動ができました。活動の際にはマスクの着用やソーシャルディスタンス、アルコール消毒など制限はたくさんありましたが、その中でも地域の方との交流を楽しむことができました。

今年度2度目で最後の対面活動でした。久しぶりの活動を楽しむことが出来ました！また、この日は沼地区周辺の絶景スポットにも行ってきました。自然豊かで、オススメです！！

この2年間は思うように活動が出来ておらず、もどかしい気持ちでいっぱいです。私たちLIPのあるべき姿や今後の目標などを改めて考えるためにワークショップを開催しました。思う存分活動できる日が早く訪れることを願うばかりです。

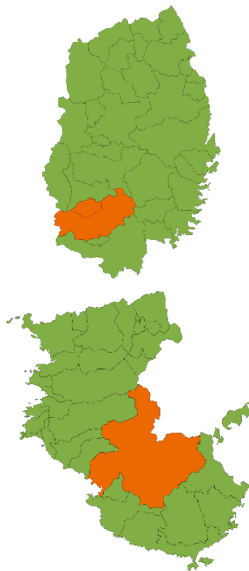
#### 今年度の総評

- ・ 稲刈りや草刈りは大変だけどとても達成感がありました。
- ・ 農業で機械化が進んでいるとはいえ、どの農作業も力や体力が必要だったので、少しでも軽減できる工夫や、若者が必要だと改めて思いました。
- ・ 日本の食料自給率の低下問題の現実を体感しました。
- ・ 地域の人と色々な話をして交流することができて嬉しかったです。

# 岩手県胆江地方および和歌山県

## 農村ワーキングホリデーを活用した都市農村交流の「鏡効果」と農村再生手法としての可能性の検証

(申請タイプ)



### 【地域の基礎データ】

人口：130,915 人（胆江地方／令和 2 年 3 月末現在）

68,844 人（田辺市／令和 3 年 10 月 1 日現在）

高齢化率：31.9%（胆江地方／平成 27 年 1 月 1 日現在）

33.2%（田辺市／令和 3 年 1 月 1 日現在）

産業：農業（稲作、畜産） など（胆江地方）

農業、漁業、林業 など（田辺市）

### 【活動の基本情報】

参加学生数：21 名（1 回生：2 名、2 回生：8 名、  
3 回生：8 名、4 回生：3 名）

活動期間：平成 26 年 6 月～

担当教員：藤田武弘

### 1. 活動実施の経緯

「農村ワーキングホリデー」は、農業や農村に関心をもつ都市住民が、繁忙期の農作業を無償で手伝う代わりに農家から寝食の提供を受けるというもので、参加者と農家との深い交流を特徴とする“日本型グリーン・ツーリズム”のなかでも、最も「鏡効果（他者との交流を通じてみた日常生活に潜む価値への気づき等）」の高い取り組みである。学生を参加者とする域学連携型の農村ワーキングホリデーは、次世代の若者たちが、農業・農村が直面する地域課題を当事者意識をもって理解する機会を提供するとともに、多世代間の交流による「鏡効果」により地域のコミュニティが活性化するなどの変化が期待されている。

### 2. 活動の内容

今年度、岩手プログラムについては、当初段階から現地での活動実施やセミナー開催等の通常行事を見送ったために、ほとんど活動はできなかった。

ただし、和歌山プログラム（田辺市）については、事前学習会の開催（オンライン）に加えて、昨年度に引き続き現地でのみかんの収穫作業時期に合わせて、宿泊施設から各農園に通い作業に赴く形での「泊業分離型」のワーキングホリデーを学部の LIP 活動ガイドラインに準拠した形で実施した（2泊3日）。

### 3. 活動を通じて

昨年度に引き続いて、コロナ禍のもとでの実施により通常の対面による活動ができなかった（または、「泊業分離」のため農家との交流が極めて限定された）ことから、通常期待される交流による「鏡効果」の検証作業を行うことは難しかった。ただし、昨年度からの連続参加者も半数程度含まれていたことから、限られた意見交換等の機会ではあったものの、貴重な交流機会となったと考えられる。オンラインでの活動は、事前・事後学習の機会としては有効であり、対面活動復活後のハイブリッド型の取り組みにも活かせる成果を得たと考えている。

#### 4. 成果物（ポスター）

## 農村ワーキングホリデーLIP

参加学生：21名（4年3名、3年8名、2年8名、1年2名）  
指導教員：藤田武弘 学生事務局：家口直己、藤井優希

### 農村ワーキングホリデーとは？

- 都市農村交流の形態のひとつ
- 農業や農村に関心のある都市住民が受入農家のもとで農作業に従事し、その対価として寝食の提供を受ける
- 参加者と受入農家の交流が生まれる  
↓  
都市住民の農業への理解促進  
農業の労働力不足の解消

### 活動目的

- 農村再生手法としての農村WHの可能性について検証する
- 都市農村交流を通じた「関係人口」づくりの効果について考える
- 農業・農村の実情に触れることで当事者意識を持つ

### 例年の主な活動

- 和歌山県かつらぎ町（6・8月 各2泊3日）
  - ・ぶどう栽培、収穫
  - ・観光農園での接客・販売など
- 岩手県胆江地方（9月 3泊4日 or 4泊5日）
  - ・稲刈り
  - ・野菜の収穫
  - ・畜産など

コロナの影響

### 今年度の活動

- 和歌山県田辺市（12月 2泊3日）
  - ・オンライン事前講義
  - ・みかんなどの柑橘、柿の収穫
  - ・収穫した果実の選果
  - ・箱詰め、出荷作業など

### 参加学生の学び

- 農作業体験や受入農家との交流を通じて農業のやりがいや苦勞を学んだ
- 担い手の高齢化や後継者不足などの農業・農村の課題を実感した



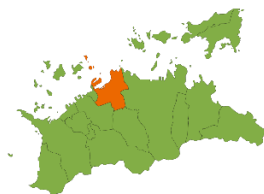
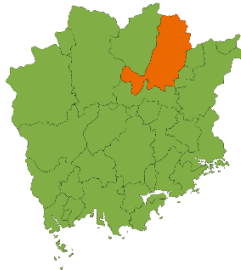
### 今後の取り組み

- 受入農家や地域との関係を大切に、今後も積極的に農村に赴いて農作業支援を行う
- 都市農村交流の活性化に向けて農村WHの取り組みを広める
- 他の地域の農村WHにも参加する
- 活動を通じて得た経験や学びを大学生生活の諸活動にも活かす



# 岡山県津山市および香川県坂出市 瀬戸内カレッジ 2021

(申請タイプ)



## 【地域の基礎データ】

人口：99,937 人（津山市／令和 2 年 10 月 1 日現在）

51,556 人（坂出市／令和 3 年 10 月 1 日現在）

高齢化率：31.1%（津山市／令和 2 年 10 月 1 日現在）

35.1%（坂出市／令和 3 年 10 月 1 日現在）

産業：製造業 など（津山市）

製造業 など（坂出市）

## 【活動の基本情報】

参加学生数：16 名（1 回生：7 名、2 回生：5 名、3 回生：4 名）

活動期間：令和 3 年 7 月～

担当教員：木川剛志

## 1. 活動実施の経緯

JR 西日本と JR 四国、瀬戸内地域の自治体と大学が協力して行う産官学提携事業「瀬戸内カレッジ」に参加しました。各地域の課題を踏まえて、若者視点を活用した地域活性化、旅行需要の喚起、学生の成長機会の創出を目指すプロジェクトです。和歌山大学が担当した市町村は、香川県坂出市と岡山県津山市です。

## 2. 活動の内容

参加学生は香川県坂出市と岡山県津山市の二つの班に分けられました。津山班は 9 月 21 日から 23 日、坂出班は 11 月 22～23 日に現地実習を行いました。そして他大学と合同でオンラインで 7 月 10 日にキックオフミーティング、10 月 24 日に中間発表会、12 月 10 日に最終発表会を行いました。本来は坂出班も 9 月の現地実習の予定でしたが、新型コロナウイルスの拡大による緊急事態宣言があり延期。実習は難航しました。

## 3. 活動を通じて

津山班は歴史溢れる城下町で、現地実習では伝統工芸品や津山ならではの食材の可能性を学びました。その上で、提案する旅ではターゲットをあえて”学生”とし、一步踏み込んだ「大人旅」と「スローツーリズム」を提案しました。坂出班は、特に離島の魅力を学び、それを踏まえて新たな坂出ブランドの構築をテーマに提案しました。核家族化が進み、故郷を持たない新しい世代にとって魅力的な”故郷”となるためにどうすべきか。“第 2 の故郷を探す旅”を提案しました。

賞を取ることはできませんでしたが、豊かな学びがありました。



#### 4. 成果物（ポスター）



2021年

# JRせとうちカレッジ

香川県坂出市・岡山県津山市

### せとうちカレッジとは

JR西日本・自治体・大学が連携し、学生ならではの視点を生かした地域活性化をねらう瀬戸内エリアの魅力発見プロジェクト。現地でのフィールドワークを含めた一連の取り組みを通して地域住民の方々の力もお借りしながら、地元の課題解決に向けたアイデアの提案や地元PR活動を展開します。瀬戸内カレッジで生まれた旅行プランやアイデアが、自治体の判断により実現した例もあります。

### 【坂出市の魅力と課題】

歴史上の人物とのつながりの深い「いにしへの町」。坂出市は、自然・歴史・芸術の魅力に加え、自治体と地元食料生との関係が深く、市が一体となって坂出市の発信に取り組んでいるところも魅力です。一方で、お土産産路が未発達である点や過剰観光地となっている点、観光資源が点在している点は課題であると実感を痛感してまいりました。

### 津山市

### 【津山市の魅力と課題】

桜の綺麗な津山城や2つの単行津地区 大自然の中のグランピング施設など観光地の充実した津山市ですが、観光客の滞在期間が短いことやSNSでの情報発信不足が課題です。

### 【提案内容】

ターゲットを成人を迎えた大学生に設定し、ゆったり大人旅をコンセプトにした観光プランをチームで考えました。まずは重伝達地区を歩くだけで「映える」「まちなか博物館」や名物・浴種しよらあとの昼食会「MyしよらArt」など津山市の知名度向上をねらうプラン。そして既存のグランピング施設でのビアガーデン開催という形で大自然を活かした、夜型コンテンツで着地型観光の推進をねらうプランなどを提案し、津山市の課題解決を目指します。

### 【活動を終えて】

津山市は2泊3日の実習では時間が足りないほど魅力のある街でした。私たちの提案で、少しでも津山の課題が解決されより多くの人に津山の魅力が伝わってほしいです。

### 坂出市

### 【提案内容】

私たちは「さかいブランド」と呼ばれるお土産の裾野拡大に向け市内各地での販売を実施し、「さかい〜で商品」を認定することを提案しました。これらは観光客に対して「さかいブランド」との接触回数を増やすことで知名度と反復購入につながるかと考えます。また、点在する観光地をめぐりながら滞在を促すため、一人旅をしたい大学生をターゲットに「五感（五感）を満たす旅・第二の故郷を旅す旅」をチームで考えました。

### 【活動を終えて】

坂出市の課題解決に向けた提案の中で、「歴史・起点・深層・連携・深化」の5つの感性をチームで考えたのは観光を学ぶ私たちだからこそ出来たことだと感じ、この学びを今後も坂出市に活かしていきたいと思えます。

### スケジュール

7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
キックオフミーティング 担当自治体決定	事前学習 オンラインでの	現地実習 津山市・坂出市	実習の成果をもとにしたミーティング	実習（坂出市） 最終報告会 に向けたミーティング	最終報告会	成果報告会 に向けた作業	成果報告会

### 3. 参考資料

#### 1) LIP の沿革

##### ■2008～10 年度（平成 20～22 年度）

地域インターンシッププログラム（通称 LIP ※2012 年度に改称）は、2008 年観光学部の設置とともにスタート。観光学部より和歌山県下の自治体への協力要請を行い、各教員が担当する自治体との協議を重ね、早いプログラムでは 2008 年度中に、遅いものでも 2009 年度中にはプログラムの実施に至った。

- ・実施状況／参加学生数（延べ人数）：

6 件／42 名（2008）、8 件／46 名（2009）、3 件／18 名（2010）

##### ■2011 年度（平成 23 年度）

- ・地域連携担当の配置

- ・地域インターンシップ実施要項の整備

◇地域（自治体）からプログラム内容について提案を受け付ける「地域提案型」と教員の地域との共同研究をベースとした「申請型」の 2 つのプログラムを設定。

◇主要な活動対象エリアを、和歌山県内に加えて大阪南部の自治体（岬町、阪南市、泉南市、田尻町、泉佐野市、熊取町、貝塚市、岸和田市）にまで拡大。

- ・地域提案募集：5 月に送付

- ・実施状況／参加学生数（延べ人数）：4 件／24 名

##### ■2012 年度（平成 24 年度）

- ・名称変更：RIP から LIP へ改称

- ・実施要項の改訂

◇申請型については、主たる活動エリアを和歌山県内と大阪南部以外でも可とした。

- ・地域提案募集：5 月に送付

- ・実施状況／参加学生数（延べ人数）：11 件／80 名

##### ■2013 年度（平成 25 年度）

- ・地域連携の所管が観光教育研究センター（現：観光実践教育サポートオフィス）となり、担当者を配置。

- ・LIP の制度改善を図るため、活動実績のある自治体の担当者にヒアリング調査を実施。

- ・LIP の認知度や参加意識を明らかにするため、学生対象のアンケート調査を実施。

- ・地域提案型プログラムの質向上のため、活動実績のある自治体や和歌山市周辺の自治体を廻り、LIP の評価の聞き取りや新制度についての周知活動を実施。

- ・地域提案募集：4 月に送付

- ・実施状況／参加学生数（延べ人数）：5 件／73 名

#### ■2014 年度（平成 26 年度）

- ・ LIP 周知活動の一環として、2014 年度活動の報告書を作成（以後継続して作成）。
- ・ 地域提案募集：地域と大学間の事前協議期間を確保するため前年度 3 月に送付
- ・ 実施状況／参加学生数（延べ人数）：10 件／139 名

#### ■2015 年度（平成 27 年度）

- ・ LIP 周知活動の一環として、2015 年度活動の報告書を作成。なお、報告書には、2008～2015 年度までの LIP に関するデータを所収（以後継続して所収）。
- ・ 地域提案募集：地域と大学間の事前協議期間を確保するため前年度 3 月に送付
- ・ 実施状況／参加学生数（延べ人数）：15 件／191 名

#### ■2016 年度（平成 28 年度）

- ・ LIP 周知活動の一環として、2016 年度活動の報告書を作成。
- ・ LIP への参加意識や活動から得られる学びを把握するべく、参加学生を対象に活動前後のアンケート調査を実施（以後継続して実施）。
- ・ 地域提案募集：地域と大学間の事前協議期間を確保するため前年度 3 月に送付
- ・ 実施状況／参加学生数（延べ人数）：21 件／227 名

#### ■2017 年度（平成 29 年度）

- ・ LIP 周知活動の一環として、2017 年度活動の報告書を作成。
- ・ LIP への参加意識や活動から得られる学びを把握するべく、参加学生を対象に活動前後のアンケート調査を実施。
- ・ 地域提案募集：地域と大学間の事前協議期間を確保するため前年度 3 月に送付
- ・ 実施状況／参加学生数（延べ人数）：19 件／217 名

#### ■2018 年度（平成 30 年度）

- ・ LIP 周知活動の一環として、2018 年度活動の報告書を作成。
- ・ LIP への参加意識や活動から得られる学びを把握するべく、参加学生を対象に活動前後のアンケート調査を実施。
- ・ 地域提案募集：地域と大学間の事前協議期間を確保するため前年度 3 月に送付
- ・ 実施状況／参加学生数（延べ人数）：13 件／190 名

#### ■2019 年度（令和元年度）

- ・ LIP 周知活動の一環として、2019 年度活動の報告書を作成。
- ・ LIP への参加意識や活動から得られる学びを把握するべく、参加学生を対象に活動前後のアンケート調査を実施。
- ・ LIP の質的向上、学びの深化、広い活動発信を目的に「LIP 合同活動報告会」を実施。
- ・ 地域提案募集：地域と大学間の事前協議期間を確保するため前年度 3 月に送付
- ・ 実施状況／参加学生数（延べ人数）：14 件／194 名

## ■2020 年度（令和 2 年度）

- ・ LIP 周知活動の一環として、2020 年度活動の報告書を作成。
- ・ LIP への参加意識や活動から得られる学びを把握するべく、参加学生を対象に活動前後のアンケート調査を実施。
- ・ 地域提案募集：地域と大学間の事前協議期間を確保するため前年度 3 月に送付
- ・ 実施状況／参加学生数（延べ人数）：16 件／209 名

## ■2021 年度（令和 3 年度）

- ・ LIP 周知活動の一環として、2021 年度活動の報告書を作成。
- ・ LIP への参加意識や活動から得られる学びを把握するべく、参加学生を対象に活動前後のアンケート調査を実施。
- ・ LIP の質的向上、学びの深化、広い活動発信を目的に「LIP 合同活動報告会（オンライン）」を実施。
- ・ 地域提案募集：地域と大学間の事前協議期間を確保するため前年度 1 月に送付。活動内容の質的向上のため、公募タイプのうち 2021 年度新規提案募集分から、地域側から事前に担当教員の希望を受け付け、教員が承諾したものをプログラム化することとしたため。
- ・ 実施状況／参加学生数（延べ人数）：21 件／231 名
- ・ 2022 年度（令和 4 年度）から、「地域連携プログラム（Local Partnership Program, LPP）」へと名称・枠組みを変更することとなり、制度設計の見直し・各所への通知などを実施。

## 2) これまでの LIP 活動地域と活動テーマ一覧

市町村名	活動年度	活動テーマ
和歌山市	2009	四季の郷公園周辺調査等
	2010	四季の郷公園と周辺農地を利用した農業観光の振興、および中心市街地との連携による活性化調査
	2011	お城を中心としたまちなか回遊性の創出
	2014	和歌山市民の森づくり事業
	2015・16	和歌山公園動物園（通称：お城の動物園）の環境エンリッチメントを通じた観光活用
	2016	地域資源を活用した、見どころマップの作成とまちあるきの実施（山東地域）
		名勝「和歌の浦」の魅力発信
		和歌山市立伏虎中学校の閉校記念誌づくり
	2016・17	観光資源を活用した観光振興の体験と調査・研究（和歌山城におけるおもてなし忍者による観光振興を通じて）
	2017	和歌山公園動物園（通称：お城の動物園）の地域資源としての観光活用～和歌山公園動物園の今後とリニューアルの検討～
2021	加太・磯の浦エリアにおける観光映像を活用した地域振興	

市町村名	活動年度	活動テーマ
岩出市	2015	観光地の活性化と情報発信
	2018	SNS を利用した地域資源再発見と訪れてみたくなるコンテンツ作り
	2019	ねごろ歴史の丘巡りスタンプラリー帳作成
	2020-21	道の駅「ねごろ歴史の丘」利用者調査及び利用促進企画

市町村名	活動年度	活動テーマ
紀の川市	2009	青洲の里施設内で実習および農家民泊体験、地域住民との意見交換
	2010	「細野溪流キャンプ場」集客向上と地域活性化の検討
	2011	細野溪流キャンプ場を起点とした地域活性化
	2012-16	紀の川市地域活性化
	2018-21	紀の川スイーツの開発

市町村名	活動年度	活動テーマ
かつらぎ町	2008	花園ふるさとセンターの有効活用に関する調査研究
	2012	かつらぎ町日帰りプランの作成
		都市近郊中山間地域における交流型農業への展開可能性を探る

市町村名	活動年度	活動テーマ
橋本市	2009	青年の家やどりの運営体験およびリニューアルプランの検討

市町村名	活動年度	活動テーマ
海南市	2020-21	交流・関係人口増を目指したエリア体験型観光コンテンツ開発

市町村名	活動年度	活動テーマ
紀美野町	2014	地域活性化にむけた調査研究（現地ヒアリング）
	2015-17	地区×学生による継続可能な地域活性化にむけた寄り添い型支援体制の構築と観光・交流情報発信
		世代間交流を推進する地域拠点の企画・運営（認知症カフェでの実践を通じて）
	2018	地区×学生による知られざる歴史掘り起こしと観光・文化・交流情報発信
	2018・19	世代間交流を推進する地域拠点の企画・運営（コミュニティカフェ等での実践を通じて）
	2019-21	地区×学生による観光・文化・交流情報発信と棚田の再生
	2020-21	きみのげんきマップの作成

市町村名	活動年度	活動テーマ
有田市	2013	みかん産地の農家の今後を考える（有田地域みかん農家経営継続課

		題調査) 有田地域における魅力的な居住環境を考える（有田地域の居住地選定要因に関する調査）
	2014	地元小学生が見つけた地域の資源に対する傾向・特性調査とその活用提案
	2016	魅力ある図書館づくり—新図書館開館にむけて—
		空き家活用による地域活性化プロジェクト
	2017	市民が集う市民会館づくり—新市民会館開館にむけて—
	2017-18	地域で働く人の魅力を子どもたちに伝える
	2019	箕島の魅力発信
	2020-21	箕島で暮らす多世代の住民による魅力再発見
青みかん（摘果みかん）の価値を上げる		

市町村名	活動年度	活動テーマ
有田川町	2008・09	観光スポット調査（鉄道フロムナード、あらぎ島・清水温泉周辺）、および各種施設における就業体験
	2010	観光スポット調査（観光ブドウ園ほか）、および各種施設における就業体験と町内宿泊施設におけるモニター宿泊
	2011	観光スポット調査、および各種施設（鶏卵牧場ほか）における就業体験と町内宿泊施設におけるモニター宿泊
	2012・13	学生との協働による棚田保全活動体制の構築に関する基礎調査
	2014	しみず体験・学習プログラムの開発
	2014-18	学生との協働による継続的な棚田保全活動体制の構築
	2019-21	学生との協働による継続的な棚田保全活動（棚田ふぁむ）

市町村名	活動年度	活動テーマ
湯浅町	2009	町内主要施設の視察と集客イベントへの活用法の検討、および有力事業者への観光誘客に関わる聞き取り、イベントにおける JAZZ バンド演奏会の開催

市町村名	活動年度	活動テーマ
広川町	2014-19	津木地区寄合会の運営、特産品開発、情報発信、イベントを共に考える
	2020-21	ツギー谷のお花畑の活用を通じた津木地域の活性化を考える

市町村名	活動年度	活動テーマ
由良町	2014	観光地の新たな魅力発見

市町村名	活動年度	活動テーマ
日高町	2016・17	地域資源の自慢を後世に引き継ぐと共に経済効果のある参加型イベントの企画立案を共に考える

市町村名	活動年度	活動テーマ
日高川町	2008	小学生の農村生活体験実習受入のための基礎調査
	2009	子ども農山漁村交流プロジェクト推進のための学生サポーターおよび課題発見
	2012	日高川町における祭事を中心とした伝統文化と地域活性化についての調査
	2017-19	体験教育旅行&夏学習～都会と大自然の出会い(かつらぎ町も含む)

市町村名	活動年度	活動テーマ
美浜町	2017	日の岬・アメリカ村の歴史的資源等を活用した観光とふるさと教育
	2019	カナダミュージアムにおけるミュージアム機能の強化
	2020-21	アメリカ村の観光コンテンツの発掘及び情報発信

市町村名	活動年度	活動テーマ
みなべ町	2012	みなべ町の新たな魅力発掘・発信事業(みなべ観光協会事業)

市町村名	活動年度	活動テーマ
田辺市	2008	秋津野ガルデン附設レストラン「みかん畑」利用客の観光行動アンケート調査、及び田辺市広域市町村圏の関係者との意見交換
	2009	農山村における UJI ターン者と地元住民との連携
	2012	和歌山県版・農山村ワーキングホリデーのシステム構築
	2017	ほっとスポット温川プロジェクト

市町村名	活動年度	活動テーマ
上富田町	2008	観光資源調査と地域の農・商・工関係者との意見交換会
	2017	地域資源を活用した“おどろきと感動”の地域づくり
	2018・19	笑顔が広がる美しい里づくり

市町村名	活動年度	活動テーマ
すさみ町	2008	各種体験観光施設の調査と関係者への聞き取り

市町村名	活動年度	活動テーマ
串本町	2017	マグロ料理で観光PR

市町村名	活動年度	活動テーマ
那智勝浦町	2016-18	地域の文化や風習、そこで暮らす人々と直にふれあいながら、これからの地域・自分・社会のあり方・つながり方を考える
	2019	地域の文化や風習の体験、獣害対策、農作業、冊子作りを通じて地域の方々と触れ合い、地域・自分・社会のあり方・つながり方を考える

	2020-21	地域の文化や風習の体験を通じて、地域住民と触れ合い、地域・自分・社会のより良いあり方・つながり方を考える。(興味関心に応じて) 地域をフィールドにそれぞれの知見を深め、価値を創出していく。
--	---------	--

市町村名	活動年度	活動テーマ
新宮市	2020-21	新宮市高田区における観光モデルコースの造成

市町村名	活動年度	活動テーマ
太地町	2009	移民関連勉強会、および地域住民、町職員との意見交換
	2012	地域資源として移民輩出の歴史を活かした観光の活性化を考える

市町村名	活動年度	活動テーマ
岬町	2012	「道の駅」建設に伴う検討委員会
	2015	マップを手にウォーキングをしたくなる気持ちを沸き立たせる「まち歩きマップ」の作成
	2016	岬フィールドミュージアム構想
	2017	着地型観光による地域活性化の取り組み
阪南市	2016	産業観光ワークショップ HANNAN OSAKA cotton project
	2018・19	地方創生にかかる地場産物商品に関する調査・研究、デザイン考案等
	2020-21	古代米を活用した商品開発、PR に関して。「古代米をおいしく食べる」
田尻町	2015	君が見つけたじりの魅力ー出会いと交流で創る健幸のまちー
熊取町	2015	第4回熊取ふれあい農業祭
	2016	第5回熊取ふれあい農業祭
	2017	第6回熊取ふれあい農業祭
岸和田市	2021	港湾エリアにおける持続可能なまちづくり
	2021	景観資源活用による景観意識の向上と地域の賑わい・活性化への貢献
	2021	岸和田市とアドベンチャーワールドが創る未来の smile とは

市町村名	活動年度	活動テーマ
岩手県奥州市 および和歌山県	2012	故郷(ふるさと)への誇りを取り戻すためのグリーン・ツーリズム
	2013	農村ワーキングホリデーを通じた農村再生の可能性を探る
	2014-21	農村ワーキングホリデーを活用した都市農村交流の「鏡効果」と農村再生手法としての可能性の検証
北海道幕別町	2014・15	地域の観光に係る調査研究(観光と地域のあり方についての調査研究及び観光資源の掘り起こし等)



富山県南砺市	2015	五箇山における持続可能な観光の実現に向けた実証調査
長野県飯田市	2015・16	道の駅遠山郷を核とした地域活性化
宮崎県	2016	みやざき観光コンベンション協会からの依頼に基づいた同県「波旅宮崎」キャンペーンのより効果的な展開に対する提案、提言作成
山口県岩国市および愛媛県新居浜市	2020	瀬戸内カレッジ 2020
岡山県津山市および香川県坂出市	2021	瀬戸内カレッジ 2021

地域・団体名	活動年度	活動テーマ
JA いずみの管内	2011・12	JA 直営型農産物直売所を拠点とした都市農村交流の推進
わかやま産業振興財団	2015・16	特産果樹がもたらす共創価値の創造（新たな健康・産業づくり）
公益社団法人日本マスターズ陸上競技連合	2017	公益社団法人日本マスターズ陸上競技連合が主催する国際・第38回全日本マスターズ陸上競技選手権大会においてスポーツを通じて、地域の人びとや海外競技者との国際交流
和歌山県	2018	「ねんりんピック紀の国わかやま 2019」、大会参加者に対する観光ツアーの開発（和歌山県全域）
	2019	「ねんりんピック紀の国わかやま 2019」における、観光ツアー同行を通じた観光業務の実践（和歌山県全域）
	2020-21	「紀の国わかやま文化祭 2021」学生による文化の魅力発信（和歌山県全域）
	2021	「林業×地域」の再発見による地域将来ビジョン策定とシナリオプランニング（田辺市龍神村）



2021 地域インターンシッププログラム活動報告書  
令和4年3月31日発行  
発行 和歌山大学観光学部観光実践教育サポートオフィス  
〒640-8510 和歌山県和歌山市栄谷 930  
印刷 井手印刷株式会社

